

第 I 編 産学官コンソーシアム事業概要報告

1. 事業概要

新しい成長分野である「獣医療体制分野」において、ニーズの変化に対応できる中核的専門人材の養成に取り組む。本事業では、関係機関・団体が中心となってこれまで取組を進めてきた「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」を利活用し、チーム獣医療に対応できる動物看護師（中核的専門人材）の養成に役立つモデルカリキュラムを開発し検証することを目的とする。さらに、動物病院や企業・団体等での利用促進、ならびに社会人や女性の学び直しに役立てるために、社会人を対象とした学習ユニットの開発と評価指標を示す。

2. 事業実施の背景

2-1. 当該分野における人材需要等の状況、それを踏まえた事業の実施意義

ペット産業の市場規模は、『ペットビジネスハンドブック』（産経新聞メディックス）の 2011 年版によれば、ペットフードが 4,713 億円、ペット用品が 1,812 億円、関連業界（病院・トリマー・ペットホテル・葬祭など）が 5,620 億円となり、合計で 1 兆 2,145 億円に上る。一般社団法人ペットフード協会が実施した平成 25 年度ペットフード産業実態調査では、ペットフードの出荷総金額は 268,132 百万円（前年比 102.0%）、出荷量で 655,082 トン（前年比 101.7%）となり、3 年ぶりに増加となっている。また、平成 26 年度全国犬・猫飼育実態調査では犬の飼育頭数は 1,034 万 6 千頭、猫は 995 万 9 千頭であり、飼育率は、犬が 15.1%、猫が 10.1%である。今後の飼育意向率をみると犬が 24.9%、猫が 16.6%と共に飼育率の約 1.6 倍あり、今後の増加に期待できる。ペットの平均寿命は犬が 14.17 歳、猫が 14.82 歳と、寿命は伸長傾向にあり、ペット業界にとって明るい材料となる。

ペットの存在価値も愛玩動物から家族の一員と化し、獣医療をはじめとして、飼い主は家族の一員となった動物に施されるサービスに人間と同様の価値を求めるようになってきた。さらに獣医療の向上や高品質のペットフードが充足される今、ペットの高齢化が進行しており、それに伴って保険や介護用品、葬儀などの関連市場も拡大している。こうしたニーズの変化に対応する取り組みとして、2013 年度よりそれまで複数の民間資格であった動物看護師の資格認定が全国統一の資格となっている。その動物看護師を養成する教育も 2013 年に高位平準化

を目指した全国共通コアカリキュラムとして構築され、2014 年度生より多くの動物看護師養成専門学校においてコアカリキュラム教育が始まった。

動物看護師の主な就労の場は動物病院であるが、こうした事情を背景とし、単なる診療・治療施設から多角的なサービスを提供する総合サービス施設として変わりつつあり、その中において求められるサービスの内容も多様な広がりを持つようになった。こうしたニーズの変化に対応する取組みとして、統一資格としての動物看護師の創設がある。「動物看護師高位平準化コアカリキュラム」に基づく教育により、動物看護師のスキル・能力を高めるとともに、中核的専門人材として顧客満足度を高める有意な人材を養成することを目指している。

本事業では、社会人の学び直しにも役立てられるように、「動物看護師高位平準化コアカリキュラム」の学習ユニット化を進めるとともに、今後重要なサービスとなりうるグルーミングやしつけ等のサービスやアンチエイジングケアサービスについての調査・研究を実施することとしている。学生のみならず、既に動物病院等の現場で活躍している社会人に対しても再教育の場として訴求することを目指しているものであり、その意義は大きいと考えている。

2-2. 取組が求められている状況、本事業により推進する必要性

これまで動物看護師に相当する民間資格が複数存在し、それぞれの資格で認定される能力・要件が異なっていたため、業界内での評価を高めることができず、結果として動物看護師という仕事に対するモチベーションの低下につながってしまっていた。動物看護師の資格を統一することにより、こうした状況を打破し、中核的専門人材としての役割を明確化することができると考えられる。本事業に参加していただく方々は、動物看護師高位平準化コアカリキュラムを作成してきた中核メンバーであり、こうしたメンバーにより、コアカリキュラムの学習ユニット化を行うことは、獣医療体制の高度化を図る上で意義深い。

また、既に動物看護師として勤務している方々の中には、当該カリキュラムで教育されるような内容についての知識・技術を持たない者も少なくない。そうした方々や、動物看護師への転身を考えている社会人の方々に対して有意となるカリキュラムを学習ユニット化することにより、社会人の学び直しの強化につなげたいと考えている。

3. 実施内容

3-1. 組織(コンソーシアムの構成員・構成機関等)

(1) 構成機関(機関として本事業に参画する学校・企業・団体等)

	構成機関(学校・団体・機関等)の名称	役割等	都道府県名
1	学校法人 シモゾノ学園 国際動物専門学校	総括、 研究開発	東京都
2	学校法人 宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校	調査・研究	宮崎県
3	学校法人 中央総合学園 高崎ペットワールド専門学校	調査・研究	群馬県
4	一般社団法人 日本小動物獣医師会	調査・研究	東京都
5	株式会社 インターズー	調査・研究	東京都
6	東京理器株式会社	調査・研究	東京都
7	アニコム損害保険株式会社	調査・研究	東京都
8	学校法人 宮崎学園 大阪ペピイ動物看護専門学校	研究開発	大阪府
9	学校法人 中央工学校 中央動物専門学校	研究開発	東京都
10	学校法人 シモゾノ学園 大宮国際動物専門学校	研究開発	埼玉県
11	学校法人 有坂中央学園	研究開発	群馬県
12	学校法人 日本環境科学学院 専門学校アニマルインターカレッジ	研究開発	宮城県
13	学校法人 爽青会 専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー	研究開発	静岡県
14	公益社団法人 日本獣医師会	研究開発	東京都
15	一般社団法人 日本動物看護職協会	研究開発	東京都
16	公益社団法人 日本動物病院福祉協会	研究開発	東京都
17	NPO法人 動物愛護社会化推進協会	研究開発	大阪府
18	株式会社 ファームプレス	研究開発	東京都

19	株式会社 緑書房	研究開発	東京都
20	株式会社 JPR	研究開発	神奈川県
21	株式会社 CRI中央総研	研究開発	群馬県
22	学校法人 中央総合学園	評価・検証	群馬県
23	学校法人 坪内学園 専門学校松江総合ビジネスカレッジ	評価・検証	島根県
24	学校法人 河原学園 アイペットワールド専門学校	評価・検証	愛媛県
25	学校法人 中村学園 専門学校ちば愛犬動物フラワー学園	評価・検証	千葉県

(2) 協力者等(委員など個人で本事業に参画する者等)

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
酒井 健夫	日本大学 名誉教授	評価・検証	東京都
新井 敏郎	日本獣医生命科学大学獣医学部 獣医学部長	評価・検証	東京都
横田 淳子	一般社団法人日本動物看護職協会	評価・検証	青森県
太田 光明	麻布大学 教授	研究開発	東京都
左向 敏紀	日本獣医生命科学大学獣医学部 獣医保健看護学科教授	研究開発	東京都
細井戸 大成	公益社団法人 日本動物病院福祉協会	研究開発	大阪府
原 大二郎	公益社団法人 日本動物病院福祉協会 ／獣徳会 動物医療センター	研究開発	愛知県

(3) 下部組織

名称(学習ユニット・コマシラバス作成WG)			
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
山下 真理子	国際動物専門学校 教頭	WG リーダー	東京都
石橋 妙子	大阪ペピイ動物看護専門学校 副校長	研究開発	大阪府
奥田 宏健	岡山理科大学専門学校	研究開発	岡山県
佐野 忠士	酪農学園大学 獣医学群 動物看護学科 教授	研究開発	北海道

荒岡 杉	専門学校穴吹動物看護カレッジ 獣医師	研究開発	香川県
門田 英敏	北海道エコ・動物自然専門学校 獣医師	研究開発	北海道
関 智恵子	大阪 ECO 動物海洋専門学校 認定動物看護師	研究開発	大阪府
若松 あゆみ	宮崎ペットワールド専門学校 獣医師	研究開発	宮崎県
田坂 安佳音	国際ペットワールド専門学校 獣医師	研究開発	新潟県
横山 晴美	名古屋コミュニケーションアート専門学校	研究開発	愛知県
西家 忠治	岡山理科大学専門学校	研究開発	岡山県
名称(学習ユニット・コマシラバス評価・検証WG)			
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
下菌 恵子	国際動物専門学校 校長	WG リーダー	東京都
酒井 健夫	日本大学 名誉教授	評価・検証	東京都
左向 敏紀	日本獣医生命科学大学 獣医学部 獣医保健看護学科 教授	評価・検証	東京都
坂本 敏	中央動物専門学校 校長	評価・検証	東京都
坂元 祥彦	宮崎ペットワールド専門学校 校長	評価・検証	宮崎県
八木 信幸	有坂中央学園 経営企画本部	評価・検証	群馬県
石橋 妙子	大阪ペピイ動物看護専門学校 副校長	評価・検証	大阪府
山下 眞理子	国際動物専門学校 教頭	評価・検証	東京都

3-4. 職域プロジェクトとの連携

平成25年度事業では、新しい成長分野である「獣医療体制分野」において、ニーズの変化に対応できる中核的専門人材の養成に取り組んだ。特に、関係機関・団体が中心となって取組を進めていた「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」を利活用し、チーム獣医療に対応できる動物看護師(中核的専門人材)の養成を目的とした。さらに、動物病院や企業・団体等での利用促進のために、社会人を対象とした学習ユニットを開発した。

本年度は、平成25年度事業をさらに発展させ、チーム獣医療に対応できる動物看護師(中核的専門人材)の養成に役立つモデルカリキュラムの開発・検証とともに、昨年度開発したカリキュラムの地域展開にも取り組んだ。これらの新しい取り組みを始めるために、上記(3-2. 事業の実施体制)のように、2つの職域プロジェクトと連携した。本コンソーシアムでは、連携した2つの職域プロジェクトの進捗報告を行い、連絡・調整会議としての役割を果たした。また併せて、コンソーシアムの下に直轄のWGを設置し、本事業の基礎となる「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」のコマシラバス作成と、それらを活用した社会人の学び直しのためのモデルユニットの作成を行った。

コンソーシアム全体会議の開催日程は以下の通り。

会議名	開催日時	議事内容
第1回全体会議	平成26年9月2日(火) 13:30 ~ 15:30 東京八重洲ホールにて	・平成25年度成果概要紹介 ・平成26年度事業計画説明 ・各職域プロジェクトならびにWGの課題について
第2回全体会議	平成26年12月16日(火) 13:30 ~ 15:30 東京八重洲ホールにて	・各職域プロジェクトの事業進捗報告 ・学習ユニット・コマシラバス作成WG及び学習ユニット・コマシラバス評価検証WGの事業進捗報告
成果報告会	平成27年2月18日(水) 15:30 ~ 17:30 東京八重洲ホールにて	・各職域プロジェクトの事業成果報告 ・学習ユニット・コマシラバス作成WG及び学習ユニット・コマシラバス評価検証WGの事業成果報告

3-5. コマシラバス作成<学習ユニット・コマシラバス作成 WG>

学習ユニット・コマシラバス作成 WG は、動物看護師養成高位平準化コアカリキュラムの作成に関わってきた専門学校の教員と獣医師で構成される。当該 WG では、昨年度事業にて作成したコマシラバスを確認・整理し、コマシラバスに掲載すべき内容についての意識合わせを行った上で、昨年度作成できなかった科目のコマシラバスを作成した。

また、学習ユニット・コマシラバス作成 WG と学習ユニット・コマシラバス評価検証 WG メンバーからなる合同 WG を開催し、学習ユニット・コマシラバス作成 WG で作成作業中のコマシラバスを検討し、コマシラバスの精度を高めた。

合同 WG では、より良いコマシラバス作成のための方策について議論を行った。コマシラバスの進捗確認をしたところ、WG 委員が作成した原案中に統一すべき用語や表現が多くみられ、評価・検証作業を行う前に、用語や表現の統一を図る必要が生じた。そこで、当初計画していた WG に加え、学習ユニット・コマシラバス作成 WG の有志からなる編集委員会を組織することにした。

編集委員会では、コマシラバスに記載されている用語や表現の統一を図るとともに、それらの成果を「文言の統一が求められる用語一覧」として整理した。(4-1. (2) 文言の統一が求められる用語一覧を参照のこと。)

コマシラバス作成の手順については以下に示すとおりとなる。

- (1) 学習ユニット・コマシラバス作成 WG 委員によるコアカリキュラム全教科のコマシラバス原案作成
 - ・ 各教科の作成担当者を選定
 - ・ コマシラバスたたき台を基に加筆修正
- (2) 学習ユニット・コマシラバス作成 WG で作成されたコマシラバス原案を合同 WG などで精査
 - ・ 用語や表現の統一を検討 ⇒ 編集委員会を新設
 - ・ 学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG 委員による助言
- (3) 編集委員会ならびに合同 WG にて指摘された内容を踏まえてコマシラバス案を作成
- (4) 学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG によるコマシラバス案の評価・検証
 - ・ 評価・検証結果を反映させて、コマシラバス完成

3-6. コマシラバスの評価・検証とモデルユニット作成<学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG>

学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG は、動物看護師養成高位平準化コアカリキュラムの作成に関わってきた大学・専門学校の方々や獣医師などで構成される。当該 WG では、学習ユニット・コマシラバス作成 WG にて作成したコマシラバスを確認し、到達目標やコマごとのポイント・学習深度などが適切に設定されているかを評価することを目標とした。

また、それらの科目を組み合わせ、社会人の学び直しに役立つような形（履修証明書の発行が可能な単位）での学習ユニット（モデルユニット）を構築した。

(1) 学習ユニット・コマシラバス作成 WG で作成されたコマシラバスを精査

- ・ コマシラバスの評価・検証方法について再検討。
⇒ コマシラバスには、講師の特性を活かす工夫も必要であり、過度な統一は不要と判断。シラバス概要のみを対象とすることに変更した。
- ・ シラバス概要について、有識者委員による精査を実施。

(2) 学習ユニットを活用するモデルケースを想定し、その分野で修得すべき内容ならびに科目を検討

「考えられるモデルケース」を参考に、「それら関連分野の専門学校や大学を卒業した OB・OG が動物病院に勤務し、認定動物看護師の資格取得を目指す」というストーリーをイメージし、学び直しに取り組みやすいモデルユニットを構築する。

⇒ <社会人の学び直しのためのモデルユニット>

<参考>考えられるモデルケース

- <1> トリマー資格取得者
- <2> ドッグトレーナー資格取得者
- <3> 飼育員資格取得者
- <4> 畜産分野履修者
- <5> 農業分野履修者
- <6> 医療分野履修者（看護師資格取得者 等）
- <7> 介護福祉分野履修者
(介護福祉士・社会福祉士・ケアマネージャー資格取得者等)

⇒ 専門学校や大学等のカリキュラムと比較し、それぞれの専門人材養成コースで履修していない科目を抽出し、社会人の学び直しに役立つモデルユニットを作成する。

学校法人 シモンズ学園
国際動物専門学校
International Animal Health & Management College

4. 事業成果

4-1. コマシラバス

(1) コマシラバス一覧

以下に、本年度作成したコマシラバスの科目名一覧を掲載する。なお、コマシラバスについては、実績報告書の別冊「コマシラバス表」を参照のこと。

種類	科目名	時間数	単位数	備考
①	動物形態機能学	150	5	追番-1~5
②	動物病理学	30	1	
③	動物疾病看護学	150	5	追番-1~5
④	動物薬理学	30	1	
⑤	動物感染症学	60	2	追番-1~2
⑥	動物病原体・衛生管理	30	1	
⑦	動物健康管理	15	1	
⑧	動物栄養学	75	3	追番-1~3
⑨	動物医療関連法規	30	1	
⑩	公衆衛生学	30	1	
⑪	動物繁殖学	15	1	
⑫	動物人間関係学	30	1	
⑬	動物行動学	60	2	追番-1~2
⑭	動物福祉論	30	1	
⑮	飼養管理学 (エキゾチックアニマル)	30	1	
⑯	飼養管理学	30	1	
⑰	動物看護学	15	1	
⑱	臨床動物看護学	90	3	追番-1~3
⑲	動物入院管理	30	1	
⑳	幼齢動物・老齢動物管理	30	1	
㉑	動物臨床検査学	30	1	
㉒	救急救命対応	15	1	
㉓	クライアントエデュケーション	30	1	
㉔	院内コミュニケーション	75	3	追番-1~3

⑳	動物飼育実習Ⅰ	45	1	
㉑	動物飼育実習Ⅱ	90	2	追番-1~2
㉒	動物看護実習Ⅰ	90	2	追番-1~2
㉓	動物看護実習Ⅱ	135	3	追番-1~3
㉔	動物臨床検査学実習Ⅰ	90	2	追番-1~2
㉕	動物臨床検査学実習Ⅱ	135	3	追番-1~3
㉖	外科動物看護実習Ⅰ	45	1	
㉗	外科動物看護実習Ⅱ	45	1	
㉘	総合臨床実習			

(2) 文言の統一が求められる用語一覧

- ① 動物医療・獣医療→「獣医療」に統一
※「チーム獣医療」も使用される
- ② 患者動物・看護動物・動物→「看護動物」に統一
- ③ 飼い主・飼主・家族→「飼い主」に統一
※「飼い主家族」や「飼い主とその家族」も使用される
- ④ 動物病院・動物診療施設→「動物病院」
- ⑤ 動物看護師・看護師→「動物看護師」
- ⑥ 人獣共通感染症・動物由来感染症→「人獣共通感染症」
※「人獣共通感染症(zoonosis)」も使用される
- ⑦ 人・ヒト→「ヒト」 ※カタカナで統一
- ⑧ 犬・イヌ→「イヌ」 ※カタカナで統一
- ⑨ 猫・ネコ→「ネコ」 ※カタカナで統一
※「ウサギ」「ウマ」「ヒツジ」など動物種はすべてカタカナを使用
- ⑩ 子犬・子イヌ・仔ネコ→「子イヌ」「子ネコ」で統一
- ⑪ 作成者名→「コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員会」で統一
※作者名は別途一覧に記載する
- ⑫ 数字表記→科目名に付ける場合は「1」「I-1」から始まる追番で表記
同カテゴリーの追番に用いる数字表記→「①」※丸付数字
- ⑬ 学科名の表記→「動物看護系学科」で統一
- ⑭ 教科書の表記→「各校の選択に準ずる」で統一
- ⑮ 参考図書の表記→「本の表題(出版社名)」で統一
※長いタイトルは適当に短縮し同じ書籍名は統一させる
- ⑯ 「単位」の表記→配当時間に換算した単位数(構成表に準ずる)

※区分した科目は分割した単位と科目全体の単位を表記しておく

⑱ 評価方法の表記

→「講義・演習:筆記試験」、「実技:実技試験」と表記しておく

※その他の評価項目(提出物とか態度とか)は別途一覧に記載する

⑲ 履修時間・回数

→科目を区分したものは科目全体の時間・回数も「○時間(1~5 合わせて○時間)・
「○回(1~5 合わせて○回)」と表記しておく

⑳ コース欄

→無記入で統一する

㉑ 授業形態

→「講義」「講義・演習」「実習」に振り分け表記する

㉒ 履修年度・学年・期

→履修条件として科目を区分したもの及び応用科目(実習のⅡなど)については、初
回は「○○Ⅰ(○○1)から先行すること」と表記しておく

→科目を区分したもの(1・2・・・やⅠ・1・Ⅰ・2)は「○○Ⅰ~Ⅲ(○○1~3)を履修す
ること」と表記しておく

㉓ 教材・教具の欄

→教科書は抜く(参考図書にまとめて記入)、その他の教材教具は一応そのままにし
ておく

※将来的に「教材・教具」はコマ内容に沿った器具機材などを記載する必要がある

4-2. コマシラバスの評価・検証結果

評価・検証とは、「到達目標」と「実績」との差異を確かめることであり、その手順は、おおよそ以下の8ステップからなると想定される。

- ① 「到達目標」を設定する。
- ② 学習プログラム・教育カリキュラムを整理する。
- ③ 教育カリキュラムを基に、コマシラバス等を作成し、アウトカムを描く。
- ④ 設計したカリキュラムで、到達目標を達成することができそうかを検討する。(例えば、
【カリキュラム編成委員会による検討】などがこれに相当)
- ⑤ 設計した通りに講義・演習・実習が行われているかを評価する。【授業評価】(他の講師によるピアレビュー、学生アンケートなど)
- ⑥ 授業により知識・スキルが修得できたかを測定する。【成績評定】(授業成果の評価＝実績)

- ⑦ 成績を集計し、到達目標と比較・検証する。【評価・検証】
- ⑧ 「学習サービス評価報告書(仮称)」として検証結果をとりまとめる。

※ 上記8ステップのうち、①～③は初回活動に大きな負荷がかかる作業となる。2年目以降は、④～⑧の活動の繰り返しが中心となる。

本年度の事業では、本コンソーシアムの「学習ユニット・コマシラバス作成 WG」と「学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG」、ならびに「職域プロジェクト(動物看護)」の2つの WG を含む、4つの WG が連携して上記8ステップを実践し、検証した。

本 WG(学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG)では、上記①と②を踏まえ、主として④と⑧を担当した。③は「学習ユニット・コマシラバス作成 WG」が担当し、⑤～⑦は「職域プロジェクト(動物看護)」の2つの WG で担当した。

なお、コマシラバスについては、実績報告書の別冊「コマシラバス表」を参照のこと。

4-3. 社会人の学び直しのためのモデルユニット

本事業では、動物看護師の関連職種者(トリマー・飼育員・ドッグトレーナー)を対象とした「社会人の学び直しのためのモデルユニット」を作成した。モデルユニットの作成に当たっては、受講対象者が履修していないと想定される科目を抽出し、それらを組み合わせることでモデル学習ユニットを作成することとした。

モデル学習ユニットでは、それぞれの科目を履修証明書が発行できる時間数(120時間)以上となるように組み合わせた。(240時間を超える場合には、2つのユニットに分割した。)また、これらモデル学習ユニットを作成する際には、夏季休暇期間や冬季休暇期間を用いての集中授業や、土曜日曜、夜間などを利用しての受講を想定し、講義科目と実習科目に分けることとした。

モデル学習ユニット	時間数	授業科目 (単位数：時間数)
動物看護関連職種有資格者 コース 講義①	135	高位平準動物看護学概論 (3単位：45h) 動物疾病看護学 (6単位：90h)
動物看護関連職種有資格者 コース 講義②	150	院内コミュニケーション (1単位：30h) 救急救命対応 (1単位：15h) 臨床動物看護学 (6単位：90h) 幼齢動物・老齢動物看護学 (1単位：15h)

動物看護関連職種有資格者 コース 講義③	135	動物看護学 (2単位: 30h) 動物福祉論 (1単位: 15h) 動物栄養学 (4単位: 60h) 動物薬理学 (2単位: 30h)
動物看護関連職種有資格者 コース 実習①	180	動物臨床検査学実習 I (2単位: 90h) 外科動物看護実習 I (1単位: 45h) 動物飼育実習 (1単位: 45h)
動物看護関連職種有資格者 コース 実習②	135	動物看護実習 II (3単位: 135h)
動物看護関連職種有資格者 コース 実習③	180	動物臨床検査学実習 II (3単位: 135h) 外科動物看護実習 II (1単位: 45h)

4-4. 事業成果の検証

本事業の成果を評価・検証することを目的として、有識者による第三者評価を実施した。

評価実施日: 平成 27 年 2 月 3 日 (火)

実施場所: 学校法人シモゾノ学園 国際動物専門学校

評価委員: 政岡 俊夫先生 (麻布大学 名誉学長・名誉教授/獣医学博士)

野上 貞雄先生 (日本大学 生物資源科学部 教授/医学博士)

藤田 桂一先生 (フジタ動物病院/獣医師 獣医学博士)

評価項目			評価結果
大項目	中項目	小項目	
I. 事業計画			達成できている。
II. 事業組織	1. 構成機関		十分達成できている。
	2. 協力者等		
	3. 下部組織		
III. 事業状況	1. 委員会の運営		達成できている。
	2. 獣医療体制コンソーシアム	学習ユニット・コマシラバス作成WG	
		学習ユニット・コマシラバス評価・検証WG	
	3. 職域プロジェクト(ペット産業)	関連職域調査研究WG	
		マネージャー養成科目開発	

		WG	
	4. 職域プロジェクト(動物看護)	臨床系科目検証WG	
		コミュニケーション系科目検証WG	
IV. 情報公開			概ね達成できている。
V. 自己点検	1. 授業アンケート		達成できている。
	2. 実施者の自己点検		
	3. 中間評価		

記入上の注意： 1. 評価は中項目、小項目の内容を勘案して、大項目毎に実施する。

2. 評価ランクは次の 5 通りとする。

- ・ 十分達成できている
- ・ 達成できている
- ・ 概ね達成できている
- ・ 十分には達成できていない
- ・ 達成できていない

3. 判断理由は中項目、小項目の記述を参考にして具体的に記述する。

【判断理由】

I. 事業計画について

本事業の目的は明確に定められていて評価できる。

II. 事業組織について

本事業の構成機関・協力者・下部組織等による組織体制は完備されていて評価できる。

III. 事業状況について

本事業は期待される成果を得ていて評価できる。なお、さらなる教育プログラムの充実を図り、獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラムの充実が望まれる。

IV. 情報公開について

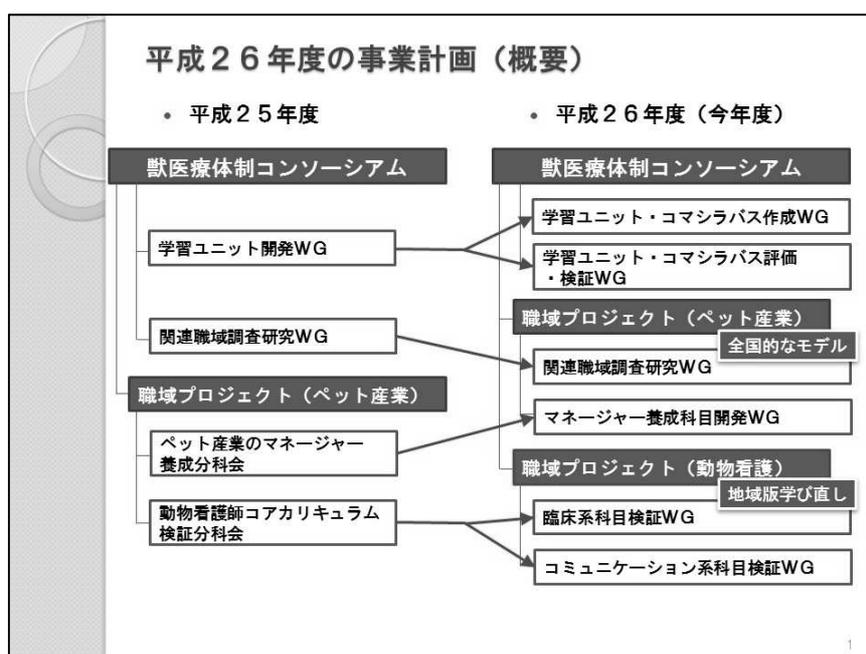
公開による成果報告会が計画されていて評価できる。

V. 自己点検について

コマシラバス等の評価・検証が行われていて改善に努めるよう取り組んでいて評価できる。

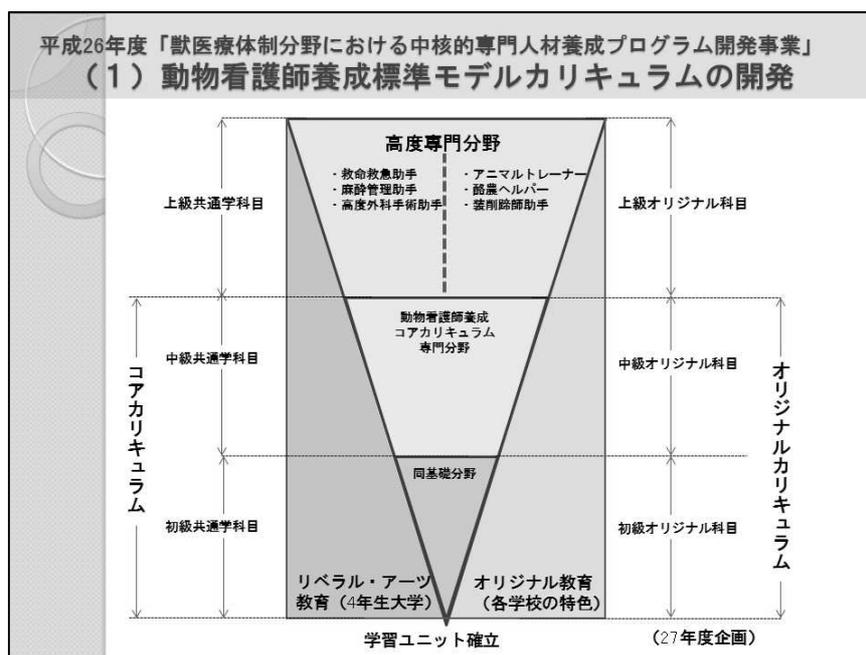
5. 総括と今後の課題

昨年度事業では、獣医療体制コンソーシアムの下に職域プロジェクト(ペット産業)を設置し、当該職域プロジェクト内の2つの分科会ではペット産業のマネージャー養成についての検討と動物看護師コアカリキュラムの実証講座による検証を行った。(下図:平成26年度の事業計画(概要)参照。)また、獣医療体制コンソーシアムの直下にも2つのWGを設置し、「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」に基づく学習ユニットの開発と動物看護師の関連職域についての調査研究を実施した。本年度事業では、昨年度の事業内容を分化・発展させ、獣医療体制コンソーシアムの下に「中核的専門人材養成のための動物看護師関連職域の調査研究及びマネージャー養成科目の開発と実践」(以下、職域プロジェクト(ペット産業)と呼ぶ。)と「獣医療体制分野における中核的専門人材養成としての動物看護師養成プログラムの開発と検証」(以下、職域プロジェクト(動物看護)と呼ぶ。)という2つの職域プロジェクトを設置した。(これら2つの職域プロジェクトの事業内容については、それぞれの実績報告書を参照のこと。)また、昨年度、学習ユニット開発WGにて開発を進めていた内容を継続発展させ、学習ユニット・コマシラバス作成WGと学習ユニット・コマシラバス評価検証WGとし、それらを獣医療体制コンソーシアムの直下に置いた。獣医療体制コンソーシアムの役割として、2つの職域プロジェクト間の調整や進捗管理と、直下のWGによる事業推進とがあるが、ここでは直下のWGによる事業推進についての総括と、今後の課題について述べる。



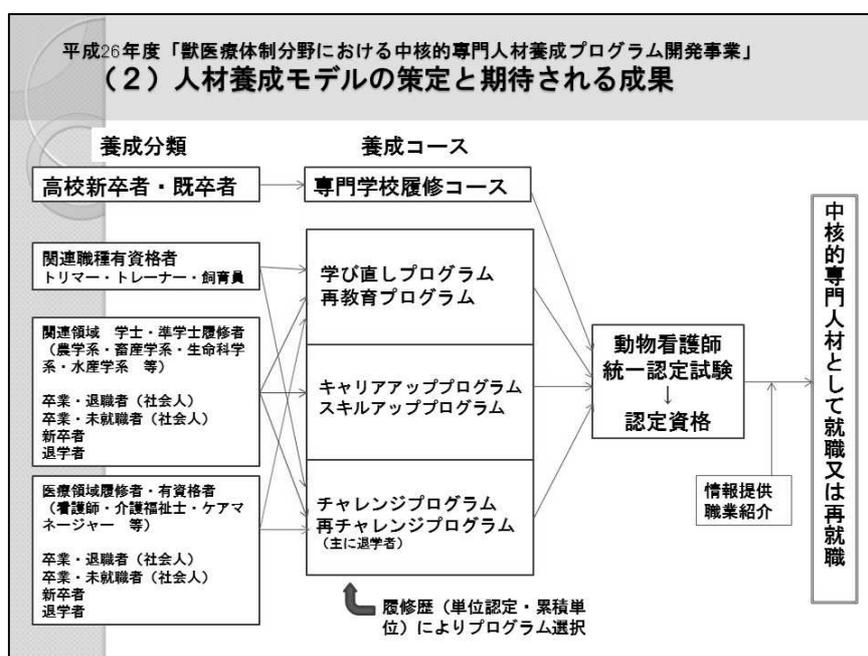
平成25年度事業では、カリキュラム内容の一層の統一化(高位平準化)を企図し、コマシラバスや授業シート、授業カルテなどの作成および実証講座による検証などに取り組んだ。昨年度はコマシラバス等のツールの有効性を検証することを主たる目的とし、「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」の 32 科目のうち、10 科目分のコマシラバスを作成した。実証講座の実施等による検証の結果、コマシラバスを作成し、これらを活用することは動物看護師養成の高位平準化を進めるために有効であることが確認できた。そこで本年度事業では、昨年度完成できなかった科目についてコマシラバスを作成し、全 32 科目のコマシラバス(33 種類)^注を完成させた。(注:飼養管理学については、エキゾチックアニマル用と産業動物用の 2 種類を作成した。)

なお、本事業(学習ユニット・コマシラバス作成 WG 及び学習ユニット・コマシラバス評価検証 WG)にて作成した 32 科目のコマシラバスは、下図中央の逆三角形部分にあたる動物看護師養成コアカリキュラムのものである。(下図:(1)動物看護師養成標準モデルカリキュラム参照。)また、職域プロジェクト(ペット産業)にて開発したマネージャー養成のためのカリキュラムは、下図右下のオリジナル教育(各学校の特色)にあたる。



本事業では、コマシラバスの作成及び評価・検証とは別に、動物看護師の関連職種者(トリマー・飼育員・ドッグトレーナー)を対象とした「社会人の学び直しのためのモデルユニット」を作成している。これは、結婚・出産などにより、離職した動物看護師及びその関連職種に従事していた方々の学び直しのためのカリキュラムとすることを企図している。

動物看護師という、多くの女性が活躍している仕事を対象とした「社会人の学び直し」のための教育は、「女性の社会進出のための学び直し」のための教育ともなる。動物病院など、職場の現状を調査した結果をみると、動物看護師としての十分な教育を受けていない関連職種の有資格者(トリマーやトレーナー、飼育員など)が動物看護師としての業務を担当しているケースも少なくないようである。下図のような学習によるスキルアップを考慮したキャリアパスを設けることができれば、業界にとっても、働く人たちにとっても、良い環境が得られるようになるだろう。(下図:「(2)人材養成モデルの策定と期待される成果」参照。)



専門学校においては、実社会と結び付きが強い実践的教育が期待されている。新卒者の実務教育は勿論のこと、リカレント教育や学び直し教育のように、多様な社会経験や学習歴、また習熟度の違いを有した人材のスキルアップを図り、社会で活躍する中核人材の育成を図ることに強い期待が寄せられている。本事業の動物看護職分野における人材育成には、そのような社会的背景を理解した上で、充実した教育環境の整備が不可欠である。そのためには、講義、演習、実習内容を提示した授業計画であるシラバスが大変重要な役割を果たしている。

シラバスは受講生と教員双方に対して、授業の進め方やその授業内容の具体的な提示をするものであり、各教科の予習や復習の必要性、授業の具体的な進め方とポイント、成績評価の基準、休講の際の補講の実施方法など、受講生と教員との間の具体的な取り決めでもある。したがって、シラバスは、具体的に、かつ明確に、適切に記述されていなければならない。例えば、科目名、開講の年次や学期、開講期間は半期又は通年か、単位数及び時間数、担当教員、講義概要と概要を構成する文字数、学習到達目標とその具体的な期待、学びのキーワー

ド、受講に必要な準備学習と復習の内容、具体的な授業方法や成績評価基準、成績評価の実施時期、教材又は参考書の提示、学生の個別指導のためのオフィス・アワーの設定と対応する曜日・時間・場所・予約の必要性、授業回数と各回の授業内容等が記述されていなければならない。シラバス作成上における重要な点は、これらの記述内容が確実に実行されなければならないことだが、この他に、教材を指定するリーディング・アサインメントや、受講生の理解度を把握する授業評価であるティーチング・エバリュエーションを実施することも明記して、質の高い授業を提示することが強く求められている。

いずれにしてもシラバスは、教育の質保証を図る上で重要で、前述したように教育を提供する側と受講する側の間の約束事である。このことを念頭に、本コンソーシアムの学習ユニット・コマシラバス作成 WG が作成したシラバスを、本シラバス評価検証 WG は社会的に注目されている動物看護職教育の質保証を図る観点から、慎重に評価検証を行った。

評価検証の対象である作成 WG が取りまとめた動物看護職教育の本シラバスは、全国レベルで初めて本格的に取り組んだ事例であり、そのためか、作成委員間の共通認識や用語の取り扱いが不統一であり、多くの課題があることは避けられず、しかも時間的制約ある中での作成作業とあって、作成に困難が伴ったことは、シラバス評価・検証 WG として十分理解できる。評価・検証 WG は、コマシラバスの作成過程で作成委員の求めに応じ、随時相談と助言を行い、課題解決のための努力を図ってきた。なお、本評価・検証 WG は、作成 WG から提出されたシラバスについて、出来る限り作成者の意思と表現を尊重し、原案を生かして、評価検証を行った。今後、検討すべき点を次の通り取りまとめた。

- 1 シラバス概要及び補足事項を通じて、用語や文体に不統一が見られるので、今後、シラバスの精度を高める上で、それらの統一を図る必要がある。
- 2 今回の評価検証では、講義及び実習ともシラバス概要のみを対象としたが、早急に各コマの記述内容との比較検討を行うべきである。
- 3 シラバス概要の提示において、各教科とも文字数や行数の統一を図り、記述内容が受講生に明確に、かつ適切に理解できるようにする必要がある。
- 4 授業時間数が多く、動物形態機能学や動物疾病看護学、院内コミュニケーション等のように1科目を分割している教科では、各分割した教科のシラバス概要の記述に重複が見られるので、教科毎のシラバス概要を重複させないようにする必要がある。
- 5 多くのシラバス概要は抽象的記述が多い。この点を改善し、受講生が概要から講義や実習内容を具体的に理解できるように修正する必要がある。
- 6 質の高いシラバス概要に改善するためには、用語の統一を図る必要があり、早急に用語集を作成し、作成委員は当然のこと、関係機関や関係者にそれを配布し、それに基づいてシラバス概要を作成する必要がある。

7 シラバス作成委員や関係者を対象に、シラバス作成に関する研修会を開催し、共通の認識と情報の共有化を図り、質の高いシラバスの確保に向けて努力する必要がある。

以上、本コンソーシアムの学習ユニット・コマシラバス作成 WG が作成したシラバスは、多くの制約のある中で真摯に取り組まれ、動物看護職教育の中で全国的に初めての取り組みであり、多くの成果を残されたことは高く評価するが、今日、動物看護職教育が注目される中で、教育の質保証が求められている現状を一層理解され、今後さらなる改善に向けて取り組まれることを期待する。

第Ⅱ編 コンソーシアム事業の個別報告

1. 学習ユニット・コマシラバス作成 WG

1-1. 開発の背景となる目的

昨年度、動物看護師を養成する教育の高位平準化を目指した全国共通コアカリキュラムとして「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」が構築され、2014 年度生より多くの動物看護師養成専門学校においてコアカリキュラム教育が始まった。

こうした動物看護師養成専門学校の動きを踏まえ、平成 25 年度文部科学省委託事業として「獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業」に取り組み、動物看護師のスキル・能力を高めるとともに、中核的専門人材として顧客満足度を高める有意な人材を養成することを目指して学習ユニットおよびコマシラバスの作成を行った。

昨年度事業では、カリキュラム内容の一層の統一化(高位平準化)を企図し、コマシラバスや授業シート、授業カルテなどの作成および実証講座による検証などに取り組んだ。昨年度はコマシラバス等のツールの有効性を検証することを主たる目的とし、「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」の32科目(33種類)のうち、10科目分のコマシラバスを作成した。実証講座の実施等による検証の結果、コマシラバスを作成し、これらを活用することは動物看護師養成の高位平準化を進めるために有効であることが確認できた。そこで今年度事業では、昨年度作成できなかった科目についてコマシラバスを作成し、全32科目(33種類)のコマシラバスを完成させることを目的とした。

1-2. 開発方法及び手順

1-2-1. 当初想定していたコマシラバスの開発方法及び手順

- (1) 学習ユニット・コマシラバス作成 WG 委員によるコアカリキュラム全教科のコマシラバス原案作成
 - ・ 各教科の作成担当者を選定
- (2) 学習ユニット・コマシラバス作成 WG で作成されたコマシラバス原案を合同 WG などでの精査
- (3) 学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG によるコマシラバス案の評価・検証
 - ・ 評価・検証結果を反映させて、コマシラバス完成

1-2-2. コマシラバスの開発にあたっての課題

上記(1)の手順で作成していたコマシラバス案の途中経過を合同 WG にて確認したところ、

各教科の作成担当者による用語の使い方や表現方法・表記方法などに大きな差異がみられることが判明した。

当初計画では、学習ユニット・コマシラバス作成 WG にて作成されたコマシラバス案を学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG が評価・検証するという予定であったが、コマシラバス案の途中経過から判断すると、コマシラバスの内容についての評価・検証よりも、その前段階の用語の統一や表現方法・表記方法の統一に取り組まざるを得なくなり、結果として、内容についての評価・検証ができないのではないかと懸念された。

1-2-3. 課題解決のための取り組み

学習ユニット・コマシラバス作成 WG にて作成されたコマシラバス案での用語の使い方や表現方法・表記方法などの差異の大きさは、作成に携わった委員の人数が多いことに起因していると考えられる。そこで、コマシラバス案に使用されている用語の統一や表現方法・表記方法の統一を図ることを目的として、少人数によるコマシラバス編集委員会を組織することとした。

また、コマシラバス編集委員会にて編集されたコマシラバスを「コマシラバス案」と呼ぶこととし、学習ユニット・コマシラバス作成 WG にて作成されたものは「コマシラバス原案」と呼ぶことで両者を区別することとした。

1-2-4. 今年度事業でのコマシラバスの開発方法及び手順

学習ユニット・コマシラバス作成 WG は、動物看護師養成高位平準化コアカリキュラムの作成に関わってきた専門学校教員と獣医師で構成される。当該 WG では、昨年度事業にて作成したコマシラバスを確認・整理し、コマシラバスに掲載すべき内容についての意識合わせを行った上で、昨年度作成できなかった科目のコマシラバスを作成した。

学習ユニット・コマシラバス作成委員会及び編集委員会の作業経過は以下のとおりである。

- ① 動物看護系専門教育機関 動物看護師養成高位平準化対応連絡協議会コアカリ作成委員会 編 コアカリキュラム構成～高位平準化・公的資格に向けてのカリキュラム～
- ② 動物看護師養成モデルコアカリキュラム（専修学校）シラバス概要
- ③ ①②に基づいて、平成 25 年度文部科学省委託事業の一部として数教科のコマシラバスを作成し成果とした
- ④ ③に基づいて、平成 26 年度文部科学省委託事業 学習ユニット・コマシラバス作成 WG の立ち上げた
- ⑤ 32 教科全教科コマシラバス作成のため、11 名作成委員で WG 開始
- ⑥ 各委員に、教科を振り分けて分担を決める
- ⑦ 11 名作成委員の中から、4 名の編集委員を決定し、委員作成のコマシラバスを集積
- ⑧ ⑦の作品を、コマシラバス評価委員 2 名が評価検証
- ⑨ 評価委員は、コマシラバスの概要部分を特に評価検証し、その結果を編集委員が受ける
- ⑩ 編集委員により、必要な統一事項を決め、それに沿った内容で編集を実施
- ⑪ ⑩を再度評価委員に再送付し、概要部分の再修正をする

- ⑫ ⑪を受け、全教科コマシラバス概要部分を修正する
- ⑬ ⑫の概要を使用して、「学習ユニットモデルケース・動物看護関連職種有資格者コース 講義① 高位平準化看護概論」(45)のシラバス概要を作成

1-3. コマシラバス原案作成(体裁の統一)

(1) 列サイズ

- ① A:1
- ② B:8
- ③ C:24
- ④ D:15
- ⑤ E:44
- ⑥ F:18

(2) 行サイズ

- ① 1行の高さを12とし、行が増えるごとに12の倍数で設定する(2行・・・24、3行・・・36)
→2行以上になる場合は「折り返して全体に表示する」に設定すること。印刷時に文字送りがずれて行が増えることがあるので、「印刷イメージ」で確認すること。
→むやみに余白をつくらないこと。
- ② 「履修条件」の行の高さを「24」に設定すること。

(3) 文字入力

- ① MS Pゴシック、10ポイント
- ② 括弧、英数は半角で行う
- ③ 長文には句点をつける
- ④ シラバス(概要)欄に入りきらない場合には、まず「履修時間欄の行の高さを24に設定」する。それでも入りきらない場合には「回数欄の行の高さを24に設定」する。
- ⑤ 枠が消えているもの(枠線の欠損)が無いように修正しておく

(4) 印刷設定

- ① 上:2、下:1.5、左:1.5、右:1.5
- ② ヘッダー1、フッター1
- ③ ヘッダー:科目名称・・・中央でMSPゴシック14ポイント
- ④ フッター:&[ページ番号]/&[総ページ数]・・・右端でMSPゴシック11ポイント
- ⑤ フッター:「H26 文科省委託事業」・・・左端でMSPゴシック11ポイント
- ⑥ ページ縮小:「すべての列を1頁に印刷」を選択すること

1-4. コマシラバス編集委員会の設置

(1) コマシラバス編集委員会の設置

コマシラバス原案に使用されている用語や表現方法・表記方法の統一を図ることを目的として、少人数によるコマシラバス編集委員会を組織した。

コマシラバス編集委員会の委員は下記のとおり

- ・ 山下 真理子（国際動物専門学校 教頭）
- ・ 石橋 妙子（大阪ペピイ動物看護専門学校 副校長）
- ・ 荒岡 杉（専門学校穴吹動物看護カレッジ 副校長代理）
- ・ 若松 あゆみ（宮崎ペットワールド専門学校 講師）

(2) コマシラバス作成時の気づき(注意すべき点など)

- ① 授業展開を考える際、基本となるテキストを何にするのかを決定していると進めやすい(コマシラバスの各項目がどのような意味を持つのか理解する必要がある)。
- ② 実際に授業を担当した経験のある教員が作成すると、実践的で使い勝手の良いものができる。
- ③ 当初は、テキストのみを参考にして机上の論として作成するが、作成したコマシラバスを使用する際の授業展開を経験すると、その後の時間配分や、参考図書などでコマ毎に深みが増える。
- ④ 当初は、コマシラバス作成の作業量が膨大で大変な仕事であると思いがちであるが、実際に取り組み始めてみるとスムーズに展開することができるようになるので、一度コマシラバス作成を経験してみるとよい。
- ⑤ 今回の成果は、あくまでも「基盤となる内容が作成できた」という段階。これから多くの担当教員の手によって、改良が加えられて、初めて動き始めると考えていただきたい。
- ⑥ コマシラバスは、基本としてこれを参考にしながら授業展開をするための資料という位置づけのものであるが、これに縛られることなく、講師の特性(個性)によって、授業の展開をすることが望ましい。ただし、学生に伝える情報として、忘れてはならないキーワードを確実に取り上げるために、コマシラバスの活用は有効である。
- ⑦ 今回はコマシラバス作成編集委員会にて用語・語句や表現方法などの統一をしてきたが、本来はもっと公的な機関がそれら動物看護学に関わる用語・語句や表現方法などの統一を図り、これを広く進めることによって、テキストや論文、学会発表などで使用される用語・語句や表現方法などの統一性も出てくると思われる。
- ⑧「院内コミュニケーション」は演習が多くを占めるため「実習科目」にしても良いかもしれない。ただし、単位設定と時間配分には検討を要する。

(3) 統一文言が求められる用語の修正

- ① 動物医療・獣医療→「獣医療」に統一
※「チーム獣医療」も使用される
- ② 患者動物・看護動物・動物→「看護動物」に統一

- ③ 飼い主・飼主・家族→「飼い主」に統一
 ※「飼い主家族」や「飼い主とその家族」も使用される
- ④ 動物病院・動物診療施設→「動物病院」
- ⑤ 動物看護師・看護師→「動物看護師」
- ⑥ 人獣共通感染症・動物由来感染症→「人獣共通感染症」
 ※「人獣共通感染症(zoonosis)」も使用される
- ⑦ 人・ヒト→「ヒト」 ※カタカナで統一
- ⑧ 犬・イヌ→「イヌ」 ※カタカナで統一
- ⑨ 猫・ネコ→「ネコ」 ※カタカナで統一
 ※「ウサギ」「ウマ」「ヒツジ」など動物種はすべてカタカナを使用
- ⑩ 子犬・子イヌ・仔ネコ→「子イヌ」「子ネコ」で統一
- ⑪ 作成者名→「コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員会」で統一
 ※作者名は別途一覧に記載する
- ⑫ 数字表記→科目名に付ける場合は「Ⅰ」※ローマ数字
 同カテゴリーの追番に用いる数字表記→「①」※丸付数字
- ⑬ 学科名の表記→「動物看護系学科」で統一
- ⑭ 教科書の表記→「各校の選択に準ずる」で統一
- ⑮ 参考図書の表記→「本の表題(出版社名)」で統一
 ※長いタイトルは適当に短縮し同じ書籍名は統一させる
- ⑯ 「単位」の表記→配当時間に換算した単位数(構成表に準ずる)
 ※分割した科目は分割した単位と科目全体の単位を表記しておく
- ⑰ 評価方法の表記
 →「講義・演習:筆記試験」、「実技:実技試験」と表記しておく
 ※その他の評価項目(提出物とか態度とか)は別途一覧に記載する
- ⑱ 履修時間・回数
 →科目を分割したものは科目全体の時間・回数も「○時間(Ⅰ～Ⅴ合わせて○時間)」・「○回(Ⅰ～Ⅴ合わせて○回)」と表記しておく
- ⑲ コース欄
 →無記入で統一する
- ⑳ 授業形態
 →「講義」「講義・演習」「実習」に振り分け表記する
- ㉑ 履修年度・学年・期
 →履修条件としてまとめ、応用(実習のⅡなど)は「○○Ⅰから先行すること」と表記しておく
 →科目を分割したもの(Ⅰ・Ⅱ・・・やⅠ-1・Ⅰ-2)は「○○Ⅰ～Ⅲを履修すること」と表記しておく
- ㉒ 教材・教具の欄
 →教科書は抜く(参考図書にまとめて記入)、その他の教材教具は一応そのままにしておく
 ※将来的に「教材・教具」はコマ内容に沿った器具機材などを記載する必要があるかも

1-5. コマシラバス

以下に、コマシラバスの「シラバス概要」を掲載する。なお、「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」の全てのコマシラバスについては、本年度実績報告書別冊「コマシラバス集」(平成27年2月発行)を参照のこと。

No.	教科名	シラバス概要
1	① 動物形態機能学－1	動物の生命維持の仕組みと、解剖学及び生理学の基礎を知り、生命体としての動物を理解できるようにする。解剖学では動物体の構造について、生理学では動物体の機能について学習する。動物病院での臨床において、あらゆる診療知識や技術の基本となるのが解剖学と生理学であり、また、内科学及び外科学などについて理解する際にも、解剖学や生理学の知識は必要不可欠であり、それらを正しく理解し、診療チームとしてより有効な動物看護ができることを目指す。動物病院においての診察対象は主にイヌやネコであるため、特にイヌやネコを基本に解剖学及び生理学を理解することを目指す。その他の動物についても、イヌやネコと比較しながら解剖学及び生理学について理解をする。
2	① 動物形態機能学－2	血液の循環とその調整及び呼吸に関わる形態と機能について学ぶ。生物は細胞によって構成されているが、その細胞の活動にはエネルギー並びにそのエネルギーの素となる栄養が必要である。また、栄養を燃焼させることによってエネルギーを生産するために酸素も不可欠である。この栄養素と酸素を体の隅々にまで運搬するのが血液である。また、酸素を体内に取り込む唯一の器官が呼吸器である。循環器系と呼吸器系は酸素を取り込み、運搬する過程で密接な関係にあり、循環系には血管系とリンパ系があり、リンパ系は免疫という自己防衛機能に重要な機能を持つ。生体が活動し、生存していくことに不可欠な酸素と栄養素の運搬について理解することを目指す。
3	① 動物形態機能学－3	動物が自然界で生存していくために、自らを防護する構造や機能が備わっている。外部からの刺激や異物が体内に侵入するのを防ぐため、皮膚に覆われ、また、一旦侵入した異物を排除するための機能が免疫機能として体内に存在する。それらの機能をつかさどる皮膚や血液について理解することを目指す。また、生体内機能が正常に働くために一定の体温を保つ恒常性についても理解し、血液とその造血器、血球、血漿成分、骨髄の形態に関する基礎的な知識を得る。さらに、免疫系の基本的な仕組みを理解し、外部環境からの防御として生体防御機構について、また外皮の構造と機能、免疫のしくみ、体温調節に関する基礎知識を得る。

4	① 動物形態機能学－4	<p>生体は、外界からさまざまな情報を取り込み、その器官が感覚器であり、感覚器で取り込まれた情報は神経を介して中枢に伝えられる。中枢において処理された情報は、再び神経を介して実際に処理を行う筋肉や骨格へと伝えられ、その情報に従って、筋肉や骨が作動し、情報に対する処理が完了する。このように動物は常に外からの情報に応じた反応ができるよう、構造と機能を備えている。それらの機能、構造について理解する。情報の受容と処理では、脳と神経における神経組織、中枢神経系および末梢神経系の解剖生理に関する基礎知識を、また感覚と情報伝達では視覚、聴覚、嗅覚、皮膚感覚、痛覚の解剖生理学に関する基礎知識を、体幹の支持と運動では骨と関節、骨格筋と運動、各部位の運動器に関する基礎知識についても学ぶ。</p>
5	① 動物形態機能学－5	<p>動物が生存していくうえで不可欠なエネルギーの素、身体を作る素となるのが栄養素である。それを体内に取り込み、消化して吸収するのが消化器である。消化器系の機能である吸収、代謝、貯蔵をコントロールするのが自律神経と内分泌系である。体内に含まれる水分のコントロールには尿の生成をはじめとする泌尿器系の働きが大きく関与している。栄養の消化と吸収を理解するには、消化器の構造と機能を学ぶ必要がある。また、内臓機能の調節では、自律神経と内分泌の基本構造と機能を、体液調整と尿の生成では、腎機能と尿細管における再吸収と分泌、集合管における尿濃縮について、また、細胞外液の調整機序を知り、体液の調整を学ぶ。これらの機能により、生体内での恒常性の維持を理解することを目標とする。</p>
6	② 動物病理学	<p>動物看護に於いて、動物がどのような状況にあり、どのような看護が必要かは、発病のメカニズムと病理学的特徴を理解することから始まる。ついては、生理機能の障害からどのように病気が発生し、どのように変化し、どのように回復していくのか理解する。さらに、病変の特徴や分類、名称、病理学的検査方法などの病理学専門用語を用い学ぶ。一般的な正常と異常の違いは、加齢による組織変化や生理機能の違い、動物種による病変の違いなどを理解し、動物看護に活かす。これらのことを理解するために、病気の成り立ち、細胞の死滅、循環障害、退行性病変、進行性病変、炎症、先天異常、免疫異常、老齢性病変、腫瘍などの項目について学ぶ。</p>
7	③ 動物疾病看護学－1	<p>チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。器官別の疾患については、特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物の看護を実践できるよう知識を身に付ける。疾患によっては、好発種や、好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で各症状を理解し、動物への看護法を身に付ける。「動物疾病看護学－1」では、概論としてバイタルサインやBCSについて学習し、口腔内疾患および感覚器疾患(耳・眼・皮膚)の代表的な疾病について学ぶ。</p>

8	③ 動物疾病看護学－2	チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。器官別疾患については、特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物の看護が実践できるよう知識を身に付ける。疾患によっては、好発種と好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で、各症状を理解し、動物への看護法を身に付ける。「動物疾病看護学－2」では、主に循環器系疾患および呼吸器系疾患、血液・造血器系疾患の代表的な疾病について学ぶ。
9	③ 動物疾病看護学－3	チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。器官別疾患については、特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物の看護が実践できるよう知識を身に付ける。疾患によっては、好発種と好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で、各症状を理解し、動物への看護法を身に付ける。「動物疾病看護学－3」では、主に消化器系疾患および肝胆道系・膵外分泌系疾患の代表的な疾病について学ぶ。
10	③ 動物疾病看護学－4	チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について、また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。器官別疾患については、特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物の看護が実践できるよう知識を身に付ける。疾患によっては、好発種と、好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で、各症状を理解し、動物への看護法を身に付ける。「動物疾病看護学－4」では、主に泌尿器系疾患および内分泌系疾患、生殖器系疾患の代表的な疾病について学ぶ。
11	③ 動物疾病看護学－5	チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。器官別疾患については、特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物の看護が実践できるよう知識を身に付ける。疾患によっては、好発種と好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で、各症状を理解し、動物への看護法を身に付ける。「動物疾病看護学－5」では、主に整形外科疾患および神経系疾患の代表的な疾病について学ぶ。また「動物疾病看護学－1～5」で学習した内容について、総合的復習を行う。
12	④ 動物薬理学	薬は獣医師の処方により調剤するが、その薬理作用および副作用などを動物看護師が確認し、知識を有することは、カルテに記載された内容を正しく理解し、作用と症状の変化を予測する上で重要である。さらに動物は、種による体重の違いも大きく、生理的代謝の特異性による投与禁忌などがあるので確認が必要となるので、薬物の取扱いと保存方法を習得し、正確な薬用量計算ができなければならない。薬理学総論を通して、薬には基本的性質があり

		<p>効能と副作用の両方を有することを学ぶ。また、薬の効能を最大限に発揮し副作用を最小化するために、飼い主が誤った判断をしないよう正しい服薬指導を行い、投薬前の状態、投薬後の動物の変化に気づくためには、薬理学の各論を理解することが必須である。</p>
13	⑤ 動物感染症学－1	<p>伴侶動物であるイヌやネコをはじめ、動物の感染症を理解することは、獣医療に関わるものとして大変重要である。主にイヌやネコに感染する微生物や寄生虫の特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護に活かす。感染症を予防するためには、感染症の発生機序、原因となる病原体についての理解が必要である。「動物感染症学－1」では、感染・発症の定義、感染の成り立ちについて学習し、主にイヌやネコに感染する微生物（細菌、真菌、原虫、ウイルス）について、性状と構造、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようにする。</p>
14	⑤ 動物感染症学－2	<p>伴侶動物であるイヌやネコをはじめ、動物の感染症を理解することは、獣医療に関わるものとして大変重要である。主にイヌやネコに感染する微生物や寄生虫について、それらの特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護に活かす。感染症を予防するためには、感染症の発生機序、原因となる病原体についての理解が必要である。「動物感染症学－2」では、動物をとりまく環境と寄生虫の関係について理解し、寄生虫の生物学的な特徴や寄生虫症についての基礎知識を修得する。主にイヌやネコに感染する内部寄生虫、外部寄生虫の感染経路、病害発生の機序、検査法、予防法を学び、飼主に寄生虫感染予防の大切さを伝えられるようにする。</p>
15	⑥ 動物病原体・衛生管理	<p>病原性をもつ微生物が生体に侵入して増殖した結果、動物に疾病（感染症）が生じる。動物看護師は、感染症に罹った動物を看護しなければならないことが多く、病原体の正確な知識を持たなければ、院内感染が拡大し、自身が感染する危険性も生じる。「動物感染症学」で学んだ、個々の動物の生命と健康の維持に障害を及ぼす病原体の知識をもとに、これらの病原体によって引き起こされる感染症をどのように予防するかを考える。その中でワクチンについても理解し、動物を健康に管理する知識を身につける。また、感染症の予防の重要性を飼い主に伝えられるようになる。</p>
16	⑦ 動物健康管理	<p>健常なイヌやネコに必要な日常ケアと適正飼育法を理解し、適正飼育に努めるよう飼い主への指導ができることが、本教科の目的である。動物が発病して診療を受ける時のみに獣医療が必要なのではなく、動物が家族の一員となった昨今、動物の一生涯にわたって獣医療の介入が必要になっている。動物病院は、動物の幸せな一生と健康をサポートし、動物看護師は動物の健やかで快適な生涯を送るための看護介入ができるように、ウェルネスプログラムとそれに含まれる定期健康診断の内容の充実は欠かせない。このプログラムを理解し、飼い主に説明指導ができるように学習する。</p>

17	⑧ 動物栄養学 ー 1	動物が家族の一員として位置づけられ、人と生活を共にする動物の「食」を取り巻く環境は大きく変わり、病気の動物を治療することが獣医療の目的ではあるが、むしろ病気の予防や病気にならない環境作り、さらには健康を推進することが動物看護師の大きな役割と言える。本教科では、動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を総論として学び、様々なペットフードやパンフレットに記載されている専門用語を理解し、飼い主に適切な栄養相談および指導を行う際の基礎知識を習得する。また栄養学総論に基づいて、注意すべき食材を知り、必要エネルギー量の指導ができ、イヌとネコに必要な栄養素の違いが説明でき、ライフステージ別の栄養指導ができることを目的として学習する。
18	⑧ 動物栄養学 ー 2	本教科では、「動物栄養学ー 1」で学んだ基礎知識を活用して、栄養学的管理が疾患の治療と健康の維持に大きく関連する疾病について各論として学ぶ。獣医師によって予後診断された中で、動物看護師が栄養学的な管理に関わられる疾患について学び、課程での最適な管理を飼い主に指導できる知識を習得する。疾患別の管理については、市販の療法食を活用することが多いため、その療法食の特性を理解し、獣医師の指導のもとで使用することの確認と、必ず定期的な指導のもとで使用することを周知させる必要がある。動物看護師は、獣医師の診断内容と栄養学的な内容を理解し、その疾患に関連する解剖学や生理学の知識を復習して、栄養学および食事の指導をする。
19	⑧ 動物栄養学 ー 3	獣医療の発展により、人間と同様に動物たちの寿命が劇的に伸びる一方、高齢化に伴う慢性疾患の増加が、獣医療における課題の一つとなっている。人々の動物に対する関心は、医療ばかりでなく、「食」に対してもある。「医食同源」の言葉があるように、「食」すなわち栄養は疾病の予防や日々の健康管理に密着しており、発病時の栄養指導は動物看護師の活躍の場である。獣医師の指導下で、疾病別の適切なフードのタイプ、給与回数、給与方法を理解し、家庭での栄養指導を行い、また、飼い主が関心を寄せる動物栄養学の知識と飼い主への指導を行うことが、動物看護師の礎となるよう修得する。また、ペットフード自体についても関心を持ち、適切に指導ができるための知識を持つように学習する。
20	⑨ 動物医療関連法規	獣医療における動物看護師の職域や身分などを明示した法令はない。獣医師とのチーム獣医療を構成する動物看護師は、動物看護師が行う獣医医療関連の業務とそれを取り巻く法律の仕組みを基礎から理解し、獣医療現場及び公衆衛生、環境関連の動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献する専門職として遵守の精神を養う必要がある。また、社会人として知っておくべき法規について学習する。2009年に

		日本動物看護職協会が公表した「動物看護者の倫理綱領 2009」と「動物看護者の業務指針」(2012)についても学ぶ。
21	⑩ 公衆衛生学	公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全等に活かせる知識を身につける。動物の看護に関係する衛生学は、個々の動物の生命と健康に障害を及ぼす各種要因についての動物衛生と、社会一般への疾病の予防を目的とする公衆衛生がある。公衆衛生は、ヒトと動物の全てを対象とした分野であり、獣医療に関わるうえでも重要な分野である。また、関連するさまざまな環境要因とヒトの健康である疾病予防、早期発見、健康維持および増進に役立てる総合的な学科目である。ヒトと動物の共生など対象とする科目では、人獣共通感染症、食品衛生、環境衛生があり、滅菌と消毒、動物防疫学についても学習する。将来、動物看護師として動物病院で勤務する際に衛生面で注意すべきことを理解し、飼い主への飼育・衛生管理指導に活かすよう学習する。
22	⑪ 動物繁殖学	繁殖は動物が存続する上で欠かせないものであり、雌雄がそれぞれ成長して生殖能力を有し受精により新たな個体(生命)が誕生する神秘的な営みである。本科目では主にイヌやネコの雌雄の生殖器の構造と機能、性行動及び発情・交尾・妊娠・分娩の過程を学ぶ。さらに正常な分娩の前兆、生理的变化と異常分娩時における助産について学習する。また、産褥期の母体看護、新生児の管理を理解し、飼い主へのアドバイスに役立てる。ブリーディングにおいて知っておかなければならない交配上の注意、遺伝学の概論、遺伝性疾患についても理解を深める。
23	⑫ 動物人間関係学	人間と暮らす動物たちはどのようにして人との関係を築いたのかを古代から現代にいたるまでの出来事や当時の考え方を概観しながら動物と人の関係について理解を深め思慮する。さらにヒューマンアニマルボンド(HAB)の考え方、基本理念をベースに、動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果について、概観する。IAHAIOの概念から、動物介在療法(AAA)、動物介在療法(AAT)、動物介在教育(AAE)とは何かを理解し、どのような活動がなされているか知る。動物看護師は診療現場のみならずあらゆるシチュエーションにある動物に関心をもち、個々の動物の看護を行う必要がある。動物(ペットだけでなく使役動物、野生動物)を取り巻く環境の遷移を思慮し、現実的な問題や課題を知り対応法を検討し、グループワークを行いながら動物と人の関係、様々な影響について理解を深める。
24	⑬ 動物行動学 ー1	主にイヌやネコの発生起源、種類による特徴を知り、基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリング及び基本的なしつけを理解し、動物の看護と飼い主への指導に活かす。ヒトと動物のコミュニケーションは、ほとんどが行動を介して行われるため、獣医療に関わる者は、動物行動学的に理解し、ヒトと動物の間の絆としての役割を持っている。動物看護師が必要とする獣医学的な知識の中に、動物行動学が取り入れられることは、動

		物の身体的な健康の保持に加えて、心理的な健康の大切さに注目している。特に伴侶動物の問題行動や産業動物に関するアニマルウェルフェアの国際基準「5つの自由」に関連する動物行動学の基礎と応用を適切に学んだ動物看護師が、獣医療の専門職として求められる。
25	⑬ 動物行動学 ー 2	ヒトと動物のコミュニケーションは、ほとんどが行動を介して行われるので、獣医療従事者は、動物のプロフェッショナルとして行動を的確に理解、判断しなければならない。動物看護師が必要とする獣医学的な知識の中に、動物行動学が取り入れられることは、動物の身体的な健康の保持に加えて、心理的健康の大切さに注目している。伴侶動物の問題行動は、動物診療における重要な課題であることが明らかになっていて、動物行動学の基礎と応用を適切に学んだ動物看護師はが、獣医療の専門職としても求められている。「動物行動学ー1」で学んだ知識を活用し、イヌやネコの基本的なしつけやトレーニングができ、また、行動学の知識を診療や問題行動の治療に活かし、動物たちの心身の健康増進に役立つように学習する。
26	⑭ 動物福祉論	動物看護の実践に必要なとされる動物福祉の認識から動物愛護や動物福祉の発展を学び、動物関連法規やヒトの関わりから動物福祉への精神を養う。特に、日本と欧米の歴史から動物観の違いを知り、ヒトと動物の関わり方への変遷を学ぶ。近代の動物福祉の基本的な考え方である「5つの自由」を基に、飼育動物にとってそれらが満たされるとはどのような事を考察する。また、家庭飼育動物、学校飼育動物、使役動物、産業動物、実験動物、野生動物に存在する動物及び動物種による「生活の質」を考えて、個々の動物のための看護を提供することで、飼い主及び関係者にも動物福祉の概念を伝えられることも大切である。他者の動物福祉に対する考えを聴き、自己の動物福祉への思慮を深めるようグループワークを行う。
27	⑮ 飼養管理学 ー 1 (エキゾチックアニマル)	主にコンパニオンアニマルとして飼育されている小鳥、ウサギ、ハムスター、モルモット、フェレット、小鳥のほか、大型インコ類や猛禽類、爬虫類、両生類の生態や飼育方法を学び、イヌとネコの違いを比較し、その種本来の習性に則した飼育・看護方法に反映することを目的とする。また、日ごろの健康管理について、動物看護師として飼い主に飼育指導できる人材となることを目指す。近年のコンパニオンアニマルの種類多様化に伴い、小動物臨床現場で遭遇する動物種も増加傾向にあり、それぞれの看護対象を正しく理解し扱える動物看護師の需要は高まっていることを学習する。したがってイヌやネコのみならず全ての動物に関して、自らが継続して学習する姿勢を取り、様々な分野に対して興味を示し自主的に行動を起こせる人材となり、動物看護師に対する社会のニーズに対応することを目指す。

28	⑩ 飼養管理学 ー 2	動物看護師の看護対象に含まれる実験動物・産業動物・野生動物・展示動物について知識を深め、専門職として活躍できる能力を身につける。またその能力を生かし、動物看護師の職域を広げ、社会的認知を得られる動物看護師となることを目指す。各分野で、伴侶動物とは異なる生理・生態・行動・習性・疾病・関係法令・飼育管理方法などを学ぶことにより、小動物臨床現場において応用可能な知識・技術を習得し、臨機応変な対応・考え方のできる動物看護師となり、社会人として必要な教養や一般常識を身につけることが重要である。それぞれの動物に対し、伴侶動物とは異なる愛護精神が必要となるため、多様性のある物事のとらえ方、動物との接し方を学び、かつ動物看護師としてどのように関わって行くかを考え思慮を深めることで、多方向から看護対象をとらえることが出来る看護感を養うとともに、正しい知識を身につけそれを社会に普及・啓発し動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する人材となることを目指す。
29	⑪ 動物看護学	小動物診療は、ますます高度化し、動物病院においては獣医師のほかに、「診療の補助行為をはじめとする種々の獣医療関連業務」に携わり、かつ飼い主に対する適切な世話や指導を行う動物看護師の重要性が大きくなってきた。単に獣医師の補助的サポートをするだけではなく、獣医師が為せる職域ではない「動物看護学」を学び、職域として確立する。動物看護師は、獣医師の業務である診断、処方、手術、予後の判定以外の多岐にわたる業務をこなさねばならない。「動物看護学」では、概論として動物看護とは何か、対象は何か、職域は何かを学んだ上で動物看護過程について学習する。まずは動物看護技術を身に付ける以前に必要な要素について概論で学び、動物看護師を目指す目的に向かってステップアップをする。
30	⑫ 臨床動物看護学ー 1	動物看護師は、獣医師の診断と治療方針のもとで動物の補助や飼い主を支える専門職として、重要な役割を果たすようになってきている。そのためには獣医師の職域とは異なる動物看護師の視点で動物を見られるようになることが必要である。「臨床動物看護学ー 1」では、動物看護学で学んだ概要を再度復習し、動物看護師の役割、目的などを振り返る。動物看護師としての観察、記録、コミュニケーション、補助技術と共に獣医学の種々の知識が必要であることは言うまでもない。人の言葉を話せず、習性や生態もちがう動物の心理的な状態を予測すること、看護動物を取り巻く社会的な影響として環境や飼い主家族の特徴をとらえることは、家庭でのお世話を継続して貰うために非常に大切である。チーム獣医療の中で動物看護師がどのような視点で看護を行うべきか症状別の看護のポイントを学ぶ。

31	⑱ 臨床動物看護学－2	動物看護師は、獣医師の診断と治療方針のもとで患者動物の援助や飼い主家族の支援をする専門職として、大きな役割を果たすようになってきている。動物看護師が動物病院において適切な動物看護を実践していくためには、獣医学の知識が欠かせない。「臨床動物看護学－2」では、さらに多様な症状別及び臓器別の看護のポイントを学ぶ。動物看護師は、疾病を持つ動物が、その疾病や障害があるために何ができないのか、そのためにどんな不自由がおきているのか、その問題を解消するためにはどんな行動をしたらよいのか、また、不自由な問題点があるままにしておいた時には、次にどんな問題点がおきてくるのかを考えてそれを予防するための行動が必要となる。そのためには、解剖生理や病理、などの基礎獣医学的知識も学習し、応用力を養う必要となる。
32	⑱ 臨床動物看護学－3	動物看護師は、獣医師の診断と治療方針のもと看護動物の援助や飼い主家族の支援をする専門職として、大きな役割を果たすようになってきている。動物看護師が動物病院において適切な動物看護を実践していくためには、獣医学の知識が欠かせない。「臨床動物看護学－3」では、症状別・臓器看護に加え、生理学を振り返りながら疾病動物にどのような障害が起きているのかアセスメントにつなげる。さらに、担がん動物や周術期の看護に必要なポイントを学ぶ。チーム獣医療の中で動物看護師が担う看護を科学的にかつ飼い主の心情を思慮し、動物本来が持つ自然治癒力を高められるよう対応することを目標に学習する。
33	⑲ 動物入院管理	動物を看護するにあたり、動物看護過程の流れについて、看護動物とその飼い主に十分にアセスメントを行い、看護上の問題点を明確化する。そこから、看護目標を立案し、その目標を達成するための観察計画、ケア計画、指導計画を考える力を身につける。また、看護を実践するだけでなく、提供した看護により動物の病状や心情などがどのように変化したのか、どのような経過をたどっているのかを、SOAP方式を用いて看護記録に動物看護師の責任で記す。動物看護過程の最終段階では、立案した看護目標が達成できたかを評価する必要がある。看護上の問題点が解決するまで、看護計画に基づき看護実践、評価が繰り返し必要である。飼い主と離れて病気の治療を受ける動物を、身体的及び精神的な面から支える重要な仕事が入院動物管理である。入院している看護動物の病状について理解と動物の情報を把握し、入院生活が極カストレスにならないように管理する基本的なケアを学ぶ。また、ペットホテルなど健康な動物を預かる際の注意点についても学び、適切なケアができるように学習する。

34	⑳ 幼齢動物・ 老齢動物管 理	主にイヌやネコの新生子期から幼年期の管理について理解し予防と看護に活かし、また、老齢動物の管理、介護を理解し飼い主やその家族に寄り添った在宅看護に活用する。新生子から成イヌや成ネコになるまで、動物は身体的にも精神的にも様々な変化を経て成長するが、新生子期に必要な特有の看護技術や、成長段階の各時に最適な看護を学び、また、社会化期が一生の性格形成についてなぜ重要なのかを理解する。 獣医療の改善によって伴侶動物の寿命が延びていることから、高齢動物が占める割合が増えているが、高齢のための症状は様々にわたり、看護援助技術にも配慮が必要となる。動物看護師として高齢動物に適切な介助できるよう看護技術を習得する。
35	㉑ 動物臨床検 査学	臨床検査における動物看護師の役割を理解し、検査の目的を解剖学的・生理学的知識とともに身に付ける。基礎的な知識と技術を中心に、動物病院での臨床的応用も理解できるようにする。解剖学、生理学、看護学と臨床検査の関連性を理解し、動物病院での応用臨床検査にまつわる知識を習得し、基礎的臨床検査である検体検査および生体検査に関して、その目的と意義を理解し、動物臨床検査学実習にて習得する、実際の手技に反映できる技術を備えるようにする。検体検査においては、尿検査・糞便検査・血液検査・眼科検査・耳の検査・皮膚科検査・その他細胞診検査・微生物学的検査の目的・方法・検体の扱い方・正常値・異常値を理解す。また、生体検査においては、基礎的身体一般検査・X線検査・心電図検査と血圧測定・超音波検査・内視鏡検査・神経学的検査・CT・MRIなどの特殊検査の目的・方法・検査機器の正しい扱い方・正常値・異常値を学習する。
36	㉒ 救急救命対 応	心肺停止状態をはじめとする緊急状態は、はいつどのような状況で生じるか予測できない。その際、チーム獣医療のスタッフとして救急救命処置の適切な補助を行う事救命への関与は大きく、緊急処置を必要とする看護動物の来院時に、スタッフは適切な対処を速やかに実施できることが必要である。緊急時に慌てないよう、日頃の診療体制内においても機材の確保と救命措置の訓練を実施し、全員が手順や準備を理解し、確実に対応できるよう準備と訓練が必要となる。機材薬剤は整理整頓し、いつでも、どこでも、誰でも使用できる状態であることが重要であり、これらの救急救命について理解する。
37	㉓ クライアント エデュケー ーション	看護動物の福祉は飼い主に大きく依存され、正しい知識と理解がないと、治療や処置を必要としている看護動物に適切な処置がなされず、治療されないまま、又は適切な処置がされないまま放置されることになる。本科目ではこれまでに学習した専門知識を活用し、健康維持・適正飼養の啓発と個別に応じたご家族教育・指導を通じてヒトと動物のより良い共生を目指し事例を用いて演習する。また、飼い主に指導するにあたり、説明する立

		<p>場の動物看護師の人柄が重視される。医療人として信頼されるための接遇スキルを心がけた上で、飼い主に受け入れられるような知識を蓄積し、その説明能力と傾聴姿勢を身に着けることが望ましい。特に家庭飼育動物は飼い主のコンプライアンスを高められることが、直接、動物の福祉にかなった生活や治癒率に結びついていることも理解する。</p>
38	④ 院内コミュニケーション1	<p>知識や技術などの目に見えないものの価値はその提供者からの印象を大きく受ける。動物看護師はその提供者の一人であり、病院の印象を決める顔ともなる。「院内コミュニケーション1」では、ホスピタリティ精神を理解し飼い主からの信頼を得るために、身だしなみの重要性を理解し、言葉遣いと話し方・表情・立ち居振る舞いの接客時の基本を身につけコミュニケーション能力をあげるための基本的な接遇トレーニングを行う。また、看護動物の安全・衛生に配慮した対応ができるよう受付時のカウンターを挟んだ高頻度業務を実技で展開し、グループ運営、段取り、プレゼンテーションの意識を高め、スタッフコミュニケーションを想定した能力を養う。</p>
39	④ 院内コミュニケーション2	<p>知識や技術などの目に見えないものの価値は、その提供者からの印象を大きく受ける。動物看護師はその提供者の一人であり、病院の印象を決める顔ともなる。「院内コミュニケーション2」では、「1」で身に付けた接遇の基本とホスピタリティ精神を活用し緊急時の対応、不快感情に対する対応をトレーニングする。また、動物看護知識だけでなく、外部対応や電話対応を院内スタッフとのコミュニケーションを通じて一社会人としての行動ができるようビジネスマナーを習得する。模擬待合室で行うローテーショントレーニングから相手の心情を慮った歩み寄る対応を臨機応変に実践できるよう精度を高める。</p>
40	④ 院内コミュニケーション3	<p>知識や技術などの目に見えないものの価値はその提供者からの印象を大きく受ける。動物看護師はその提供者の一人であり、病院の印象を決める顔ともなる。「院内コミュニケーション3」は、「1」「2」の応用として多様なシチュエーションを用いたトレーニングを行う。獣医療提供者として安心かつ安全で、信頼を基本にホスピタリティ精神を接遇に活かす対応について、人間心理（顧客心理）を思慮しながら実践力を養う。また、受付ではしばしば同時に複数の対応が必要とされたり、予期しない事項への問題解決能力が問われる場合がある。マニュアルだけでなく誠実さと謙虚さを持ち常に人間力を高める心構えで飼い主、スタッフとのコミュニケーション作りに活かす必要があり、コミュニケーション能力は経験と慮りが影響する。本科目を通じて社会人としての準備段階であることを認識し、学習に取り組む必要がある。</p>

41	⑳ 動物飼育実習 I	実際に動物の飼養管理をすることにより、種類の特徴を知り、基本的行動様式と正しいハンドリング、アニマルウェルフェアの国際基準「5つの自由」を遵守した飼育および基本的なトレーニング法を理解する。特に動物の身体的な健康と心理的健康の保持に努め、動物の観察力や看護および問題解決能力を養う。また、動物の飼養管理を通して感染症や誤食などの事故が発生した場合に必要な予防医療や衛生管理、環境整備を実践し危機管理能力を養い、飼い主の指導に活用する。動物が人間社会で適応し、飼い主と楽しく快適に暮らすために安心感を与えて、よい関係を築くトレーニングを行う。
42	㉑ 動物飼育実習 II-1 動物飼育実習 II-2	実際に動物の飼養管理をすることにより種類による特徴を知り、動物の心身の健康の保持に努める。また、繰り返し実践することで動物の観察力を養うとともに、他の人と協力して飼育作業を行う協働性を身につける。さらに、動物の個性を見極め、任された作業を一人でやり遂げる責任感やチームを意識したコミュニケーション力を習得する。感染症や誤食などの事故が発生した場合に必要な予防医療や衛生管理、環境整備を実践し危機管理能力を養い、飼主指導に活用する。
43	㉒ 動物看護実習 I-1	講義で習得した知識の実践とし、診療現場に必要な観察力及び看護法に関する基本的手技を身につける。また、手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身に付ける。動物の基礎情報を収集し、診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。飼い主から得た主訴・病歴などの情報をもとに、全身の身体検査を実施し、バイタルサインの評価・記録・獣医師への報告が行えるようにする。エキゾチックアニマルの状態観察法や、幼齢動物・高齢動物にみられる特有の状態や疾患を理解し、全身評価ができるようにする。それぞれの動物種と状態に応じた保定技術を身につけ、スムーズな診察・処置を行えるようにし、また投薬や輸液時の器機の管理・備品の準備・正確な手技をマスターする。院内・イヌ舎・ネコ舎・入院舎の衛生管理に努め、滅菌・消毒・殺菌への理解を深めながら感染の予防を実践する。
44	㉒ 動物看護実習 I-2 (グルーミング)	基礎で習得した知識の実践とし、診療現場に必要な観察力及び看護法に関する基本的手技を身につけ、手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を習得する。グルーミングが与える動物への効果を学び、様々なイヌ種・ネコ種や状態に応じたグルーミングの技術を得るとともに、皮膚・被毛を中心とした健康状態の把握について理解を深める。疾患が疑われた場合は獣医師に報告し、獣医学的見地から動物の看護およびケアにあたる。薬浴を必要とする動物のケアと家庭での管理について、飼い主へ説明を実施し、状態の維持・向上とクライアントエデュケーションに努める。グルーミングに使用する備品・シャンプー剤を知り、個々に応じた選択ができるように習得し、高齢動物・罹患動物のグルーミングにおい

		て、状態の観察・的確な手技を取り、負担のないグルーミングを実践する。死亡後のエンジェルケアについて理解を深め、的確なグルーミングを実施したうえで家庭へ戻すまでの手技を学び、ペットロスの心の状態を理解し、飼い主のケアに努める。
45	⑳ 動物看護実習Ⅱ－1 動物看護実習Ⅱ－2 動物看護実習Ⅱ－3	「動物看護実習Ⅰ」での実践能力に応用力を用いて、正確性や迅速性を身につける。動物の基礎情報を収集し、診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。飼い主から得た主訴・病歴などの情報をもとに、全身の身体検査を実施し、バイタルサインの評価・記録・獣医師への報告が行えるようになる。エキゾチックアニマルの状態観察法も知り、幼齢動物・高齢動物にみられる特融の状態や疾患を理解し、全身評価ができるようにする。それぞれの動物種と状態に応じた保定技術を身につけ、できるだけ受診動物に負担がなく、かつスムーズな診察・処置が行えるよう、サポートができるように習得する。投薬や輸液が必要なケースにおいて、器機管理・備品の準備・正確な手技をマスターし、動物の状態観察および看護に努め、院内・犬舎・猫舎・入院舎の衛生管理に努め、滅菌・消毒・殺菌への理解を深めながら感染の予防を実践する。
46	㉑ 動物臨床検査学実習Ⅰ－1 動物臨床検査学実習Ⅰ－2	講義で習得した知識の実践とし、診療現場に必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基本的手技を身につけ、また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践を習得する。検査における動物看護師の役割を理解し、臨床検査の目的を解剖・生理学的知識とともに、検体検査および生体検査の目的と意義を理解し習得する。採取した検体を用いた検査では、尿検査・糞便検査・血液検査・眼科検査・耳の検査・皮膚科検査・その他細胞診検査・微生物学的検査の目的・方法・検体の扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。また、生体検査では、基礎的身体一般検査・X線検査・心電図検査と血圧測定・超音波検査・内視鏡検査・神経学的検査・CT・MRIなどの特殊検査の目的・方法・検査機器の正しい扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。
47	㉒ 動物臨床検査学実習Ⅱ－1 動物臨床検査学実習Ⅱ－2 動物臨床検査学実習Ⅱ－3	「動物臨床検査学実習Ⅰ」で習得した手技に応用力を付けて正確性、迅速性を身につける。検査の意義を理解し、手順書を見ないでも一人で責任を持った検査結果を出せるよう繰り返し実習し、また、検査結果の意味と関連性臓器について考察できるようにする。常に検査結果を準値と比べ、異常値の場合は速やかに獣医師に報告できるよう一連の流れを習得する。さらにデータのまとめとして飼い主に提示しできるようにまとめ、検査内容について説明できるよう習得する。基本を忘れずに、検体の保存法、取り扱いと検査後の処理と医療廃棄物の区分が正しくでき、スタッフの安全と院内感染防止にも配慮し、検査後の看護動物の容態観察も習得する。

48	① 外科看護実習 I	周術期の術前・術中・術後において、動物看護師の役割である外科手術を補助するために必要な外科看護技術を修得する。看護動物が安全に麻酔（手術）を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解することが重要である。また、麻酔（手術）が円滑に行われるためには、日頃からの手術器具、機材の管理が必要となり、術中の補助では麻酔下の看護動物がどのような状態にあるのかを考え、麻酔モニターを使用し管理を行う。正常と異常の状態を理解し、異常が見つかった場合は速やかに獣医師に報告し、獣医師の指示に基づき行動がとれるようにする。術後の管理では必ず起こる術後の疼痛に関して、ペインスケールを用いて評価を行い、看護動物の継続的な観察と看護の実践を行う。
49	② 外科看護実習 II	周術期の術前・術中・術後において、動物看護師の役割である外科手術の補助をするために必要な基礎知識を学び、外科看護技術を修得する。看護動物が安全に麻酔（手術）を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解することが重要である。また、麻酔（手術）が円滑に行われるためには日頃からの手術器具、機材の管理が必要となる。術中の補助では麻酔下の看護動物がどのような状態にあるのかを考え、麻酔モニターを使用し管理を行う。正常と異常の状態を理解し、異常が見つかった場合は速やかに獣医師に報告し、獣医師の指示に基づき行動がとれるようにする。術後の管理では必ず起こる術後の疼痛に関して、ペインスケールを用いて評価を行い、看護動物の継続的な観察と看護の実践を行う。
50	③ 総合臨床実習	修学した知識と技術が実際の獣医療現場でどのように活かされているのか動物病院で体験・実習する。動物病院の施設構造・機能を理解し看護が行われている場の環境を理解することで、獣医療現場での臨床経験から看護動物や飼い主への配慮を含むより実践的な看護と専門知識および倫理感を習得する。また、チーム獣医療の現場から診療の流れ、専門職としての役割を体験し、臨床現場ならではの臨場感を体験する。いままで修学した知識と技術、コミュニケーション能力を發揮し、先輩動物看護師に見習うことで、新人スタッフとしての心構えと社会人としての責任感を養い自身に不足している部分を理解する。

2. 学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG

2-1. 学習ユニット・コマシラバスの評価・検証

2-1-1. 評価・検証作業の概要

評価・検証とは、「到達目標」と「実績」との差異を確かめることであり、その手順は、おおよそ以下の8ステップからなると想定される。

- ① 「到達目標」を設定する。
- ② 学習プログラム・教育カリキュラムを整理する。
- ③ 教育カリキュラムを基に、コマシラバス等を作成し、アウトカムを描く。
- ④ 設計したカリキュラムで、到達目標を達成することができそうかを検討する。(例えば、【カリキュラム編成委員会による検討】などがこれに相当)
- ⑤ 設計した通りに講義・演習・実習が行われているかを評価する。【授業評価】(他の講師によるピアレビュー、学生アンケートなど)
- ⑥ 授業により知識・スキルが修得できたかを測定する。【成績評定】(授業成果の評価＝実績)
- ⑦ 成績を集計し、到達目標と比較・検証する。【評価・検証】
- ⑧ 「学習サービス評価報告書(仮称)」として検証結果をとりまとめる。

※ 上記8ステップのうち、①～③は初回活動に大きな負荷がかかる作業となる。2年目以降は、④～⑧の活動の繰り返しが中心となる。

本年度の事業では、本コンソーシアムの「学習ユニット・コマシラバス作成 WG」と「学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG」、ならびに「職域プロジェクト(動物看護)」の2つのWGを含む、4つのWGが連携して上記8ステップを実践し、検証した。

本WG(学習ユニット・コマシラバス評価・検証WG)では、上記①と②を踏まえ、主として④と⑧を担当した。③は「学習ユニット・コマシラバス作成WG」が担当し、⑤～⑦は「職域プロジェクト(動物看護)」の2つのWGで担当した。

2-1-2. 実施内容

前項で示したように「評価・検証とは、「到達目標」と「実績」との差異を確かめること」であり、評価・検証作業にとって「到達目標の設定」は非常に重要である。本事業で評価・検証を行うのは動物看護師養成のための教育カリキュラムであるので、到達目標は「動物看護師として必要なコンピテンシーを有する人材を育成すること」となる。

- ① 到達目標

動物看護師として必要なコンピテンシーを有する人材を育成すること

そして、①を達成するために策定されたのが、②の教育カリキュラム「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」である。

② 教育カリキュラム

「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」

これら①と②を踏まえて作成された③のコマシラバスを精査し、設計したカリキュラムで、到達目標を達成することができそうかを検討することが④の作業となる。

コマシラバスとは、当該科目でどのような授業を行うのかを1コマ毎に詳述したものである。コマシラバスでは、その授業を通じて「何ができるようになる」のか、「何がわかるようになる」のかをコマ毎に記載する様式ができており、コマシラバスを確認することで、受講者自身が、その授業における目標を達成できたか否かを自己評価できるように工夫されている。そして、それらコマ毎の目標を集約した「科目の到達目標」として記載されているのが「シラバス概要」という項目である。

コマシラバスというツールを用いることで、

- ・各コマ(1コマの授業)での目標を達成することができたか(受講者の達成度評価)
- ・各コマでの目標を受講者が達成できたか(講師の授業評価)
- ・各コマの目標が達成できれば科目の到達目標を達成できるか(科目内容の評価)
- ・各科目の到達目標(シラバス概要)を達成できれば、教育カリキュラム(ここでは「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」)の到達目標を達成できるか(カリキュラムの評価)

というように、多様な視点から、階層的な評価を行うことができるようになる。

ここでは、上記のうち、④の「設計したカリキュラムで、到達目標を達成することができそうかを検討する」ことが求められているので、シラバス概要を精査することにした。

④ 設計したカリキュラムで、到達目標を達成することができそうかを検討する。

「動物看護師養成高位平準化コアカリキュラム」の到達目標を達成することができる「シラバス概要」となっているか精査する。

⑧の評価報告書のとりまとめを行うためには、⑤～⑦の結果を精査しなければならないので、当該データを「職域プロジェクト(動物看護)」(事業実施校:大阪ペピイ動物看護専門学校)の2つのWGから提供していただいた。

2-1-3. 学習ユニットにおけるコマシラバスの評価と検証 (酒井健夫委員)

専門学校においては、実社会と結び付きが強い実践的教育が期待されている。新卒者の実務教育は勿論のこと、リカレント教育や学び直し教育のように、多様な社会経験や学習歴、また

習熟度の違いを有した人材のスキルアップを図り、社会で活躍する中核人材の育成を図ることに強い期待が寄せられている。本事業の動物看護職分野における人材育成には、そのような社会的背景を理解した上で、充実した教育環境の整備が不可欠である。そのためには、講義、演習、実習内容を提示した授業計画であるシラバスが大変重要な役割を果たしている。

シラバスは受講生と教員双方に対して、授業の進め方やその授業内容の具体的な提示をするものであり、各教科の予習や復習の必要性、授業の具体的な進め方とポイント、成績評価の基準、休講の際の補講の実施方法など、受講生と教員との間の具体的な取り決めでもある。したがって、シラバスは、具体的に、かつ明確に、適切に記述されていなければならない。例えば、科目名、開講の年次や学期、開講期間は半期又は通年か、単位数及び時間数、担当教員、講義概要と概要を構成する文字数、学習到達目標とその具体的な期待、学びのキーワード、受講に必要な準備学習と復習の内容、具体的な授業方法や成績評価基準、成績評価の実施時期、教材又は参考書の提示、学生の個別指導のためのオフィス・アワーの設定と対応する曜日・時間・場所・予約の必要性、授業回数と各回の授業内容等が記述されていなければならない。シラバス作成上における重要な点は、これらの記述内容が確実に実行されなければならないことだが、この他に、教材を指定するリーディング・アサインメントや、受講生の理解度を把握する授業評価であるティーチング・エバリュエーションを実施することも明記して、質の高い授業を提示することが強く求められている。

いずれにしてもシラバスは、教育の質保証を図る上で重要で、前述したように教育を提供する側と受講する側の間の約束事である。このことを念頭に、本コンソーシアムの学習ユニット・コマシラバス作成 WG が作成したシラバスを、本シラバス評価検証 WG は社会的に注目されている動物看護職教育の質保証を図る観点から、慎重に評価検証を行った。

評価検証の対象である作成 WG が取りまとめた動物看護職教育の本シラバスは、全国レベルで初めて本格的に取り組んだ事例であり、そのためか、作成委員間の共通認識や用語の取り扱いが不統一であり、多くの課題があることは避けられず、しかも時間的制約ある中での作成作業とあって、作成に困難が伴ったことは、シラバス評価・検証 WG として十分理解できる。評価・検証 WG は、コマシラバスの作成過程で作成委員の求めに応じ、随時相談と助言を行い、課題解決のための努力を図ってきた。なお、本評価・検証 WG は、作成 WG から提出されたシラバスについて、出来る限り作成者の意思と表現を尊重し、原案を生かして、評価検証を行った。今後、検討すべき点を次の通り取りまとめたので、参考にされたい。

- 1 シラバス概要及び補足事項を通じて、用語や文体に不統一が見られるので、今後、シラバスの精度を高める上で、それらの統一を図る必要がある。
- 2 今回の評価検証では、講義及び実習ともシラバス概要のみを対象としたが、早急に各コマの記述内容との比較検討を行うべきである。
- 3 シラバス概要の提示において、各教科とも文字数や行数の統一を図り、記述内容が受講生に明確に、かつ適切に理解できるようにする必要がある。

- 4 授業時間数が多く、動物形態機能学や動物疾病看護学、院内コミュニケーション等のように1科目を分割している教科では、各分割した教科のシラバス概要の記述に重複が見られるので、教科毎のシラバス概要を重複させないようにする必要がある。
- 5 多くのシラバス概要は抽象的記述が多い。この点を改善し、受講生が概要から講義や実習内容を具体的に理解できようように修正する必要がある。
- 6 質の高いシラバス概要に改善するためには、用語の統一を図る必要があり、早急に用語集を作成し、作成委員は当然のこと、関係機関や関係者にそれを配布し、それに基づいてシラバス概要を作成する必要がある。
- 7 シラバス作成委員や関係者を対象に、シラバス作成に関する研修会を開催し、共通の認識と情報の共有化を図り、質の高いシラバスの確保に向けて努力する必要がある。

以上、本コンソーシアムの学習ユニット・コマシラバス作成 WG が作成したシラバスは、多くの制約のある中で真摯に取り組まれ、動物看護職教育の中で全国的に初めての取り組みであり、多くの成果を残されたことは高く評価するが、今日、動物看護職教育が注目される中で、教育の質保証が求められている現状を一層理解され、今後さらなる改善に向けて取り組まれることを期待する。

2-2. 社会人の学び直しニーズの把握

(1) 動物看護師の関連職種養成コース(専門学校)のカリキュラム

授業科目	コマ数	動物看護	トリマー			ドッグトレーナー		飼育員	
			A学校	B学校	C学校	A学校	C学校	A学校	C学校
美容基礎学			○	美容器具演習	美容理論1.2		美容理論		美容理論1.2
ライフデザイン学			○						
PC実習		○	○	POPデザイン・PC	○	○	○	○	○
イヌ学			○		○	○		○	
ネコ学			○			○		○	
動物行動学(イヌ)	60	○		動物生態学			○		○
動物行動学(ネコ)		○		動物生態学					
しつけ学・実習			○	動物生態学・ハンドリング	ハンドリング	○	○		○
トレーニング学・実習				訓練学・訓練実習	ドッグトレーニング	○	○		○
ドッグスポーツ学						○			
ドッグライフマネージメント学						○			
犬種・犬体・繁殖学			○		犬学	○			
動物形態機能学	150	○	○			○		○	
病原体・衛生管理	30	○		獣医学	解剖生理学	○	解剖生理学	○	解剖生理学
公衆衛生学	30	○	○	獣医学	公衆衛生学		公衆衛生学		公衆衛生学
動物感染症学	60	○		獣医学	○	○	○	○	○
基礎学(算数・国語・生物)		○	○			○		○	
動物看護学	15	○	○	獣医学	動物の病気	○	動物の病気	○	動物の病気
動物健康管理	15	○		獣医学	動物の世話と管理		動物の世話と管理		動物の世話と管理
臨床動物看護学	90	○							
動物入院管理	30	○							
動物福祉論	30	○		獣医学			ヒトと動物の関係学		ヒトと動物の関係学
動物人間関係学	30	○		獣医学			○		○
動物繁殖学	15	○	○	獣医学					
救急救命対応	15	○							
動物病理学	30	○							
動物疾病看護学	150	○	△	△	△	△	△	△	△
動物栄養学	75	○	○	動物栄養衛生学		○	○	○	○
院内コミュニケーション	75	○							
動物薬理学	30	○		獣医学					
幼齢動物・高齢動物管理学	30	○							
動物医療関連法規	30	○		獣医学	動物関係法規		動物関係法規		動物関係法規
動物臨床検査学	30	○		(獣医学)					
クライアントエデュケーション	30	○							
飼養管理学(エキゾチックアニマル)	60	○		○	飼養管理士総論		エキゾチックアニマル		エキゾチックアニマル
飼養管理学(産業動物 他)		○							
動物看護実習Ⅰ	90	○	△	△	△	△	△	△	△
動物看護実習Ⅱ	135	○					○		
動物臨床検査学実習Ⅰ	90	○		動物看護実習					
動物臨床検査学実習Ⅱ	135	○							
外科動物看護実習Ⅰ	45	○							
外科動物看護実習Ⅱ	45	○							
動物飼育実習Ⅰ	45	○	○	動物管理実習	動物の世話と管理	○	動物の世話と管理	○	動物の世話と管理
動物飼育実習Ⅱ	90	○							
アロマセラピー学			○	ホリスティックアロマ		○		○	
動物飼育管理学				飼養管理学			飼養管理士総論	○	飼養管理士総論
野生動物概論Ⅰ・実習				飼養管理学				○	
野生動物概論Ⅱ・実習								○	
動物園研究							○	○	○
ライフマネージメント								○	
鳥類学Ⅰ				動物生態学				○	
鳥類学Ⅱ								○	
アクアリウム学				動物生態学				○	
水族園学							動物園総論	○	動物園総論
ウマ学								○	
自然環境保全論								○	
自然保護論								○	
自然環境調査法								○	
コミュニケーション		7つの習慣J	7つの習慣J	実務教養	○	7つの習慣J	○	7つの習慣J	○
ビジネスマナー		試験セミナー/7つの習慣S	試験セミナー/7つの習慣S	一般教養	○	試験セミナー/7つの習慣S	○	試験セミナー/7つの習慣S	○

飼育・健康管理実習					動物の世帯と管理実習	○	動物の世帯と管理実習	○	動物の世帯と管理実習
ペットビジネス学				企業研究・販売小売学・経営学		○			
フリーディング学						○			
トリミング実習		美容実習	美容実習	○	○	美容実習	○	美容実習	○
グルーミング実習		美容実習	美容実習	○・猫美容	○	美容実習	○	美容実習	○
総合美容実習（インターン実習）				○	○		○		○
総合臨床実習		○	○			○	○		○

※看護科は美容実習の中で美容基礎学を実施

(2) 農学分野・獣医学分野・看護学分野(大学)のカリキュラム

宮崎大学 農学部 畜産草地学科シラバス				
必修	選択	番号	科目名	履修年次
○			大学教育入門セミナー	1年次
○			情報・数量スキル	
○			外国語コミュニケーション(英語・初修外国語)	
○			専門基礎(生態学の基礎)	
○			基礎植物学	
○			基礎動物学	
○			基礎科学	
○			基礎遺伝学	
	○		基礎生態学	
	○	1	基礎微生物学	
	○		基礎環境資源経済学(基礎数学)	
	○		(基礎物理学)	
○			畜産草地科学序説	1年〜2年次
○			畜産草地科学基礎実習	
○			草地・草原環境保全・修復学	
○		2	動物行動学	
○			畜産草地科学基礎化学	
○			畜産草地科学概論	
○			畜産草地科学基礎実験	
○			専門教育入門セミナー	2年次
○			環境と生命	
○			現代社会の課題(社会と人間・自然のしくみ)	
○			文化・社会系	
○			科学・技術系	
○			生命科学系	
○			学際・生涯学習系	
○			地域科学系	
○			外国語系(英語)	
○		3	家畜栄養学	
○			牧場実習 I	
○			環境草地学	

日本大学 生物資源科学部 動物資源科学学科シラバス							
必修	選択	番号	科目名	単位	コース	履修年次	備考
○			基礎生物学	2	全コース	1年次	
○			動物基礎科学概論	2			
○			動物遺伝学	2			
○		16	動物形態学	2			
○			動物生態学	2			
○		17	動物生殖学	2			
○			化学概論	2			
○			動物資源経済学	2			
○		18	野生動物学	2			
○			基礎生化学	2			
	○		生物資源科学概論	2	全コース	2年次	英語8単位はMUST
	○		キャリア・デザイン入門	2			
	○		生物資源科学フィールド実習	1			
	○		その他教養教育科目講義(語学)	30単位以上必修			
	○		その他教養教育科目講義(人文系)				
	○		その他教養教育科目講義(自然科学系)				
	○		牧場実習	1			
○			生物統計学	2			
○		19	動物衛生学	2			
○			ミルク科学	2			
○		20	生殖生理学	2	全コース	3年	4年
○			飼料資源学	2			
○		21	微生物学	2			
○		22	動物育種学	2			
○			肉と卵の科学	2			
○		23	栄養生理学	2			
○			畜産経営学	2			
○		24	伴侶動物学	2			
○		25	動物応用栄養学	2			
○			動物資源科学実験	1			
○			動物資源科学演習	1			
○			卒業研究	6			

○		草地システム生態学		○		分子生物学	2	動物の生命科学コース	2年次	選択必修から5単位 選択科目から30単位
○		飼料作物学		○		化学実験の基礎	2			
○		動物生殖生理学		○		免疫生物学	2			
○		動物環境管理学		○		実験動物学	2			
○	4	衛生微生物学		○		情報処理論	2			
○		畜産食品科学		○		微生物学実習	1			
○		学外体験実習		○		動物生理学実験	1			
○		動物育種資源学		○	36	動物資源科学インターンシップ	1			
○		動物環境管理学実験		○		生命工学	2			
○	5	野生動物学		○	26	細胞・発生生物学	2			
○		植物バイオテクノロジー		○	27	動物行動学	2			
○		草類遺伝資源・育種学実験		○		動物心理学	2			
○		実践動物園学		○	28	食品衛生学	2			
○		草地生産・生態学実験		○	29	動物疾病学	2			
○		草地学特別講義		○	30	動物関連法規・政策	2			
○		草地畜産論		○	31	動物栄養学実験	1			
○		飼料学		○	32	動物生殖学実験	1			
○	6	家畜栄養学実験		○	32	動物育種学実験	1			
○	7	動物遺伝育種学実験		○	33	動物形態学実習	1			
○		土壌管理学概論		○		化学実験の基礎	2			
○		草類利用学実験		○		畜産マーケティング論	2			
○		草地環境科学特別講義		○		草地・飼料作物学	2			
○		(適正家畜生産規範学)		○		情報処理論	2			
○		(適正家畜生産規範学実習)		○	34	微生物学実習	1			
○		(実践適正家畜生産規範学)		○	35	動物生理学実験	1			
○		(植物生理学)		○	36	動物資源科学インターンシップ	1			
○		(生命科学概論)		○	37	家畜学	2			
○		(動物生理学Ⅰ)		○		産乳科学	2			
○		(生物化学Ⅱ)		○		産肉科学	2			
○	8	動物育種学		○	27	動物行動学	2			
○		草類利用学		○		動物心理学	2			
○		実践畜産草地生産学		○	38	資源動物論	2			
○		専門英語		○	28	食品衛生学	2			
○		動物生殖制御学		○	29	動物疾病学	2			
○	9	動物生殖生理学実験		○		動物性食品機能学	2			
○		草類バイオマス論		○	30	動物関連法規・政策	2			
○		地域環境保全論		○	39	アニマルウェルビーイング・動物福祉論	2			
○	10	実験動物学		○	31	動物栄養学実験	1			
○		動物解剖学Ⅰ・Ⅱ		○		動物性食品科学実験	1			
○	11	動物生理学Ⅱ		○		草地・飼料資源学実習	1			
○		牧場実習Ⅱ		○	32	動物育種学実習	1			
○	12	実験動物学各論		○	33	動物形態学実習	1			
○		草地植生管理学		○	40	動物資源経済学演習	1			
○		放牧生態学		○		分子生物学	2			
○		動物福祉学		○		動物生物学	2			
○		草類遺伝資源・育種学		○		実験動物学	2			
○	13	動物衛生疾病学		○		情報処理論	2			
○	14	公衆衛生学		○	34	微生物学実習	1			
○		卒業論文	4年	○	35	動物生理学実験	1			
○	15	実験動物学実習		○	36	動物資源科学インターンシップ	1			
				○	41	犬と猫の科学	2	ヒトと動物と環境コース	2年次	選択必修から5単位 選択科目から30単位
				○	27	動物行動学	2			
				○		動物心理学	2			
				○	42	保全生物学	2			
				○	38	資源動物論	2			
				○	28	食品衛生学	2			
				○	29	動物疾病学	2			
				○		動物園学	2			
				○	30	動物関連法規・政策	2			
				○	39	アニマルウェルビーイング・動物福祉論	2			
				○		動物性食品科学実験	1			
				○	43	伴侶動物学実習	1			
				○	44	野生動物学実習	1			
				○	33	動物形態学実習	1			
				○	40	動物資源経済学演習	1			

麻布大学 獣医学部 動物応用科学科				
必修	選択	番号	科目名	単位
○			心理学	2
	○		世界文化史	2
	○		法律学・政治学	2
	○		現代社会学	2
○			ライフサイエンスの数学Ⅰ	1
○			ライフサイエンスの物理学Ⅰ	2
○			化学	2
○			生物学	2
	○		自然科学史	2
	○		化学入門	2
○			スタディ・スキルズ	1
○			コンピュータ演習	1
○	選択必修		基礎英語演習 他	1
	○		外国語選択Ⅰ(中国・スペイン・ドイツ)	2
○			動物応用学概論Ⅰ	2
○			動物応用科学実習	1
○			細胞生物学	2
○		45	動物機能解剖学	2
○	選択演習		基礎体育 他	2
○		46	生命・環境倫理学	2
○			経済学	2
	○		ライフサイエンスの数学Ⅱ	1
	○		有機化学	2
○			生態学	2
○			化学実験	1
	○		情報処理論	2
○			基礎ゼミⅠ	1
○	選択演習		購読演習	1
○	選択必修		英作文演習	1
	○		外国語選択Ⅱ(中国・スペイン・ドイツ)	2
○			動物応用科学概論Ⅱ	2
○			遺伝生物学	2
○		47	動物機能解剖学Ⅱ	1
○		48	動物機能解剖学実習	1
○			動物生理学Ⅰ	2
	○		生物学入門	2
○			基礎ゼミⅡ	1
○	選択必修		英語購読Ⅰ	2
○	選択必修		総合英語Ⅰ	2
○	選択必修		実用英語Ⅰ	2
○			分子生物学	2
○			生殖生物学	2
○			微生物学	2
○		49	動物発生学	2
○			動物生化学Ⅰ	1
○			生物統計学演習	1
○			動物遺伝資源学	2
○			野生動物学	2
○			応用動物行動学	2
○		50	動物人間関係学	2
○		51	動物関連法規	2
○		52	動物人間関係学基礎実	1
	○		牧場実習	2
○	選択必修		実用英語Ⅱ	2
○	選択必修		英語購読Ⅱ	2
○	選択必修		総合英語Ⅱ	2

1
年
次

2
年
次

※ 参考 看護分野			
分野	番号	科目	単位
基礎分野		科学的思考の基盤	13
		人間と生活・社会の理解	
専門基礎分野	83	人体の構造と機能	15
	84	疾病の成り立ちと回復の促進	
		健康支援と社会保障制度	6
専門分野Ⅰ		基礎看護学	10
		臨地実習	3
専門分野Ⅱ		基礎看護学	3
		成人看護学	6
		老年看護学	4
		小児看護学	4
		母性看護学	4
		精神看護学	4
		臨地実習	16
		成人看護学	6
		老年看護学	4
		小児看護学	2
		母性看護学	2
統合分野		精神看護学	2
		在宅看護論	4
		看護の統合と実践	4
		臨地実習	4
		在宅看護論	2
		看護の統合と実践	2
合計			97

○		動物生理学実習	1
○	53	動物生化学Ⅱ	2
○		動物生化学実習	1
○	54	動物繁殖学	2
○	55	動物発生工学	2
○		食品科学	2
○	56	動物資源経済学	2
○	57	動物福祉論	2
○	58	動物病態学	2
○		動物生命科学基礎実	1
○		キャリア形成論	2
○		社会調査論	2
○	59	動物生理学Ⅱ	1
○		英語購読Ⅲ	2
○		英語購読Ⅲ	2
○		英語購読Ⅲ	2
○	60	動物栄養学	2
○		動物衛生学	2
○	61	動物分子生殖科学	2
○		食品機能学	2
○	62	インターンシップ	2
○		専門ゼミ	2
○	63	動物生産環境保全論	2
○		現代生物進化論	2
○		分子遺伝学	2
○		動物遺伝育種学実習	1
○		動物遺伝子工学	2
○		細胞培養工学	2
○		動物分子免疫学	2
○	64	動物繁殖学実習	1
○	65	実験動物学	2
○		実験動物学実習	1
○	66	動物トキシコロジー	2
○	67	動物工学実習	1
○		分子細胞生物学	2
○		バイオインフォマティク	1
○	68	動物受精卵移植論	2
○		微生物機能科学	2
○		食品製造学	2
○		食品科学実習	1
○		機能分析化学	1
○		機能分析化学実習	1
○		野生動物調査演習	1
○	66	動物トキシコロジーⅡ	2
○	69	動物飼養学	2

3
年
次

麻布大学 獣医学部 動物応用科学科			
選択		動物トキシコロジー実習	2
選択		動物行動神経科学	1
選択	70	動物健康管理学	2
選択		犬学・猫学	2
選択	71	馬学	2
選択		医学概論	2
選択	72	動物介在活動・療法演習Ⅰ	1
選択		応用動物心理学実習Ⅰ	1
選択		乗馬応用実習Ⅰ	1
選択	73	動物行動生態学	2
選択	74	野生動物管理学	2
選択		野生動物学野外演習	1
選択	75	動物行動治療学	2
選択		動物介在活動・療法演習Ⅱ	1
選択		応用動物心理学実習Ⅱ	1
選択	75	動物行動管理学実習	1
選択		乗馬応用実習Ⅱ	1
選択		保全生態学	2
選択		生物分類学・動物園概論	2
選択	76	動物栄養学実習	1
選択	77	動物衛生学実習	1
選択	78	公衆衛生学	2
選択		人と動物の共通感染症	2
選択	79	動物薬理学	2
選択		科学の伝達	2
必修		卒業論文	6
選択	80	食品衛生学	2
選択	81	動物発達行動学実習	1
選択		動物生殖制御論	2
選択	82	家畜人工授精特別実習	1
選択		動物生産生理学	2

3
年
次

4
年
次

2-3. 社会人の学び直しのためのモデルユニット

2-3-1. 学習ユニットモデルケースの作成の概要

学習ユニットとは、学習の単位のことである。本事業では最小のユニットを15時間の授業科目としているが、ここでモデルケースとして作成する学習ユニットは、それら最小のユニットである授業科目を組み合わせ、履修証明書が発行できる120時間以上としたものを指す。

社会人の学び直し等、受講対象者を想定し、それら受講対象者のニーズにあったカリ

キュラムを作成する。

2-3-2. 受講対象者の想定

- * コアカリ未履修の現職(実務経験者)
- * 動物看護師の関連職種者(トリマー・飼育員・ドッグトレーナー)
- * 畜産学分野履修者
- * 農学分野履修者
- * 医療分野履修者(看護師資格取得者 など)
- * 介護福祉分野履修者(介護福祉士・社会福祉士・ケアマネージャー資格取得者など)

2-3-3. 学習ユニットモデルケースの作成手順

(1) 想定した受講対象者の既習科目の整理

- ① 動物看護師の関連職種者(トリマー・飼育員・ドッグトレーナー)
- ② 畜産分野履修者及び農業分野履修者
- ③ 医療分野履修者(看護師資格取得者など)及び介護福祉分野履修者(介護福祉士・社会福祉士・ケアマネージャー資格取得者など)

(2) 学習ユニットを構成する科目名の抽出

受講対象者が履修していない科目を抽出し、それらを組み合わせることで学習ユニットモデルケースを作成した。

(3) 履修証明書が発行できる学習ユニットモデルケースの作成

前項で抽出した科目を履修証明書が発行できる時間数(120 時間)以上となるように組み合わせ、学習ユニットモデルケースを作成した。(240 時間を超える場合には、2つのユニットに分割した。)また、これら学習ユニットモデルケースを作成する際には、夏季休暇期間や冬季休暇期間を用いての集中授業や、土曜日曜、夜間などを利用しての受講を想定し、講義科目と実習科目に分けることとした。

2-3-4. 学習ユニットモデルケース(動物看護師の関連職種者向け)

モデル学習ユニット	時間数	授業科目 (時間数)
動物看護関連職種有資格者 コース 講義①	135	高位平準動物看護学概論 (45) 動物疾病看護学 (90)
動物看護関連職種有資格者 コース 講義②	135	院内コミュニケーション (30) 臨床動物看護学 (90) 幼齢動物・老齢動物看護学 (15)
動物看護関連職種有資格者	135	動物看護学 (30)

コース 講義③		動物福祉論 (15) 動物栄養学 (60) 動物薬理学 (30)
動物看護関連職種有資格者 コース 実習①	165	動物臨床検査学実習 I (90) 救急救命対応 (15) 外科動物看護実習 I (45) 動物飼育実習 I (小動物) (15)
動物看護関連職種有資格者 コース 実習②	135	動物看護実習 II (135)
動物看護関連職種有資格者 コース 実習③	195	動物臨床検査学実習 II (135) 外科動物看護実習 II (45) 動物飼育実習 II (産業動物) (15)

2-4. 高位平準動物看護概論のコマシラバス

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		動物看護師が獣医療の一角を担う専門職と認識され平成21年4月に一般社団法人日本動物看護職協会が設立された。今後、動物看護師は動物看護者としての倫理綱領に基づき、より専門性を高めた知識と技術が必要になる。そして、『あらゆる動物との絆を通じ、動物の健康保持と増進、予防と獣医療補助に努め、公衆衛生と豊かな国民の暮らしに寄与することが使命』であると考えます。 本ユニットは、動物看護師養成カリキュラムの導入部分として知っておきたい科目の概論をまとめたものである。
履修条件		
ユニット		
科目名	高位平準動物看護概論	
単位		
履修時間	45 時間	
回数		
授業形態		評価方法
作成者	コマシラバス作成 編集委員会	
教科書		
参考図書		
コマシラバス		
50 分/コマ	コマのテーマ	内容

1, 2	①形態機能学	動物の生命維持の仕組みと、解剖学及び生理学の基礎を知り、生命体としての動物を理解できるようにする。解剖学では動物体の構造について、生理学では動物体の機能について学習する。動物病院での臨床において、あらゆる診療知識や技術の基本となるのが解剖学と生理学であり、また、内科学及び、薬理学などについて理解する際にも、解剖学や生理学の知識は必要不可欠であり、それらを正しく理解し、診療チームとしてより有効な動物看護ができることを目指す。動物病院における診察対象は主にイヌやネコであるため、特にイヌやネコを基本に解剖学及び、生理学を理解することを目指す。その他の動物についても、イヌやネコと比較しながら解剖学及び、生理学について理解をする。
3, 4		血液の循環とその調整及び呼吸に関わる形態と機能について学ぶ。生物は細胞によって構成されているが、その細胞の活動にはエネルギー並びにそのエネルギーの素となる栄養が必要である。また、栄養を燃焼させることによってエネルギーを生産するために酸素も不可欠である。この栄養素と酸素を体の隅々にまで運搬するのが血液である。また、酸素を体内に取り込む唯一の器官が呼吸器である。循環器系と呼吸器系は酸素を取り込み、運搬する過程で密接な関係にあり、循環系には血管系とリンパ系があり、リンパ系は免疫という自己防衛機能に重要な機能を持つ。生体が活動し、生存していくことに不可欠な酸素と栄養素の運搬について理解することを目標とする。
5, 6		動物が自然界で生存していくために、自らを防護する構造や機能が備わっている。外部からの刺激や異物が体内に侵入するのを防ぐため、皮膚に覆われ、また、一旦侵入した異物を排除するための機能が免疫機能として体内に存在する。それらの機能をつかさどる皮膚や血液について理解することを目指す。また、生体内機能が正常に働くために一定の体温を保つ恒常性についても理解し、血液とその造血器、血球、血漿成分、骨髄の形態に関する基礎的な知識を得る。免疫系の基本的な仕組みを理解し、外部環境からの防御として生体防御機構について、また外皮の構造と機能、免疫のしくみ、体温調節に関する基礎知識を得る。
7, 8		生体は、外界からさまざまな情報を取り込み、その器官が感覚器であり、感覚器で取り込まれた情報は神経を介して中枢に伝えられる。中枢において処理された情報は、再び神経を介して実際に処理を行う筋肉や骨格へと伝えられ、その情報に従って、筋肉や骨が作動し、情報に対する処理が完了する。このように動物は常に外からの情報に応じた反応ができるよう、構造と機能を備えている。それらの機能、構造について理解する。情報の受容と処理では、脳と神経における

		<p>神経組織、中枢神経系および末梢神経系の解剖生理に関する基礎知識を、また感覚と情報伝達では視覚、聴覚、嗅覚、皮膚感覚、痛覚の解剖生理学に関する基礎知識を、体幹の支持と運動では骨と関節、骨格筋と運動、各部位の運動器に関する基礎知識についても学ぶ。</p>
9, 10		<p>動物が生存していくうえで不可欠なエネルギーの素、身体を作る素となるのが栄養素である。それを体内に取り込み、消化して吸収するのが消化器である。消化器系の機能である吸収、代謝、貯蔵をコントロールするのが自律神経と内分泌系である。体内に含まれる水分のコントロールには尿の生成をはじめとする泌尿器系の働きが大きく関与している。栄養の消化と吸収を理解するには、消化器の構造と機能を学ぶ必要がある。また、内臓機能の調節では、自律神経と内分泌の基本構造と機能を、体液調整と尿の生成では、腎機能と尿細管における再吸収と分泌、集合管における尿濃縮について、また、細胞外液の調整機序を知り、体液の調整を学ぶ。これらの機能により、生体内での恒常性の維持を理解することを目標とする。</p>
11 ～15	②動物病理学	<p>動物が生存していくうえで不可欠なエネルギーの素、身体を作る素となるのが栄養素である。それを体内に取り込み、消化して吸収するのが消化器である。消化器系の機能である吸収、代謝、貯蔵をコントロールするのが自律神経と内分泌系である。体内に含まれる水分のコントロールには尿の生成をはじめとする泌尿器系の働きが大きく関与している。栄養の消化と吸収を理解するには、消化器の構造と機能を学ぶ必要がある。また、内臓機能の調節では、自律神経と内分泌の基本構造と機能を、体液調整と尿の生成では、腎機能と尿細管における再吸収と分泌、集合管における尿濃縮について、また、細胞外液の調整機序を知り、体液の調整を学ぶ。これらの機能により、生体内での恒常性の維持を理解することを目標とする。</p>
16 ～20	③動物感染症学	<p>伴侶動物であるイヌやネコをはじめ、動物の感染症を理解することは、獣医療に関わるものとして大変重要である。主にイヌやネコに感染する微生物や寄生虫の特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護に活かす。感染症を予防するためには、感染症の発生機序、原因となる病原体についての理解が必要である。動物感染症学Ⅰでは、感染・発症の定義、感染の成り立ちについて学習し、主にイヌやネコに感染する微生物(細菌、真菌、原虫、ウイルス)について、性状と構造、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようにする。動物感染症学Ⅱでは、動物をとりまく環境と寄生虫の関係について理</p>

		解し、寄生虫の生物学的な特徴や寄生虫症についての基礎知識を修得する。主にイヌネコに感染する内部寄生虫、外部寄生虫の感染経路、病害発生の機序、検査法、予防法を学び、飼主に寄生虫感染予防の大切さを伝えられるようにする。動物感染症学Ⅱでは、動物をとりまく環境と寄生虫の関係について理解し、寄生虫の生物学的な特徴や寄生虫症についての基礎知識を修得する。主にイヌネコに感染する内部寄生虫、外部寄生虫の感染経路、病害発生の機序、検査法、予防法を学び、飼主に寄生虫感染予防の大切さを伝えられるようにする。
21 ～25	④病原体・衛生管理	病原性をもつ微生物が生体に侵入して増殖した結果、動物に疾病(感染症)が生じる。動物看護師は、感染症に罹った動物を看護しなければならないことが多く、病原体の正確な知識を持たなければ、院内感染が拡大し、自身が感染する危険性も生じる。「動物感染症学」で学んだ、個々の動物の生命と健康の維持に障害を及ぼす病原体の知識をもとに、これらの病原体によって引き起こされる感染症をどのように予防するかを考える。その中でワクチンについても理解し、動物を健康に管理する知識を身につける。また、感染症の予防の重要性を飼い主に伝えられるようになる。
26 ～30	⑤公衆衛生学	公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全等に活かせる知識を身につける。動物の看護に関係する衛生学は、個々の動物の生命と健康に障害を及ぼす各種要因についての動物衛生と、社会一般への疾病の予防を目的とする公衆衛生がある。公衆衛生は、ヒトと動物の全てを対象とした分野であり、獣医療に関わるうえでも重要な分野である。また、関連するさまざまな環境要因とヒトの健康である疾病予防、早期発見、健康維持および増進に役立つ総合的な学科目である。ヒトと動物の共生などを対象とする科目では、人獣共通感染症、食品衛生、環境衛生があり、滅菌と消毒、動物防疫学についても学習する。将来、動物看護師として動物病院で勤務する際に衛生面で注意すべきことを理解し、飼い主への飼育・衛生管理指導に活かすよう学習する。
31 ～35	⑥動物人間関係学	人間と暮らす動物たちはどのようにして人との関係を築いたのかを、古代から現代にいたるまでの出来事や当時の考え方を概観しながら動物と人の関係について理解を深め思慮する。さらにヒューマンアニマルボンド(HAB)の考え方、基本理念をベースに、動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果について、概観する。IAHAIO の概念から、動物介在療法(AAA)、動物介在療法(AAT)、動物介在教育(AAE)とは何かを理解し、どのような活動がなされているか知る。動物看護師は診療現場のみならずあらゆるシチュエーションにある動物に

		<p>関心をもち、個々の動物の看護を行う必要がある。動物(ペットだけでなく使役動物、野生動物)を取り巻く環境の遷移を思慮し、現実的な問題や課題を知り対応法を検討し、グループワークを行いながら動物と人の関係、様々な影響について理解を深める。</p>
36 ～40	⑦飼養管理学 エキゾチックアニマル	<p>主にコンパニオンアニマルとして飼育されている小鳥、ウサギ、ハムスター、モルモット、フェレット、小鳥のほか、大型インコ類や猛禽類、爬虫類、両生類の生態や飼育方法を学び、イヌとネコの違いを比較し、その種本来の習性に則した飼育・看護方法に反映することを目的とする。また、日ごろの健康管理について、動物看護師として飼い主に飼育指導できる人材となることを目指す。近年のコンパニオンアニマルの種類多様化に伴い、小動物臨床現場で遭遇する動物種も増加傾向にあり、それぞれの看護対象を正しく理解し扱える動物看護師の需要は高まっていることを学習する。したがってイヌやネコのみならず全ての動物に関して、自らが継続して学習する姿勢を取り、様々な分野に対して興味を示し自主的に行動を起こせる人材となり、動物看護師に対する社会のニーズに対応することを目指す。</p>
41 ～45	⑧飼養管理学 実験動物・産業動物・野生動物・展示動物	<p>動物看護師の看護対象に含まれる実験動物・産業動物・野生動物・展示動物について知識を深め、専門職として活躍できる能力を身につける。またその能力を生かし、動物看護師の職域を広げ、社会的認知を得られる動物看護師となることを目指す。各分野で、伴侶動物とは異なる生理・生態・行動・習性・疾病・関係法令・飼育管理方法などを学ぶことにより、小動物臨床現場において応用可能な知識・技術を習得し、臨機応変な対応・考え方のできる動物看護師となり、社会人として必要な教養や一般常識を身につけることが重要である。それぞれの動物に対し、伴侶動物とは異なる愛護精神が必要となるため、多様性のある物事のとらえ方、動物との接し方を学び、かつ動物看護師としてどのように関わって行くかを考え思慮を深めることで、多方向から看護対象をとらえることが出来る看護感を養うとともに、正しい知識を身につけそれを社会に普及・啓発し動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する人材となることを目指す。</p>

第Ⅲ編 議事録一覧 (開催日順)

平成 26 年 7 月 25 日 学習ユニット全体会議 (第 1 回)

平成 26 年 8 月 6 日 学習ユニット・コマシラバス作成 WG (第 1 回)

平成 26 年 9 月 2 日 コンソーシアム実施委員会 (第 1 回)

平成 26 年 9 月 30 日 学習ユニット・コマシラバス評価検証 WG (第 1 回)

平成 26 年 10 月 12 日 コマシラバス編集委員会 (第 1 回)

平成 26 年 11 月 5 日 コマシラバス編集委員会 (第 2 回)

平成 26 年 11 月 13 日 学習ユニット全体会議 (第 2 回)

平成 26 年 12 月 10 日 学習ユニット・コマシラバス評価検証 WG (第 2 回)

平成 26 年 12 月 16 日 コンソーシアム実施委員会(第 2 回)

平成 27 年 1 月 23 日 学習ユニット・コマシラバス評価検証 WG (第 3 回)

平成 27 年 2 月 18 日 成果報告会

会議議事録

事業名	獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業
代表校	学校法人シモゾノ学園 国際動物専門学校

会議名	平成 26 年度文科省事業 獣医療体制における中核的専門人材養成の戦略的推進事業 第一回学習ユニット全体会		
開催日時	平成 26 年 7 月 25 日 (金) 12:00~14:30 (2.5h)		
場所	コンベンションルーム・A P 品川ルーム L		
出席者	下 菌 恵 子	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 理事長	実施委員長、学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG リーダー
	山下真理子	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 教頭	学習ユニット・コマシラバス作成 WG リーダー、コマシラバス評価・検証 WG
	石橋 妙子	(学)宮崎学園 大阪ペピイ動物看護専門学校 副校長	学習ユニット・コマシラバス作成 WG、コマシラバス評価・検証 WG
	酒井 健夫	日本大学 名誉教授	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	坂元 祥彦	(学)宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校 校長	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	左向 敏紀	日本獣医生命科学大学 教授	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	荒岡 杉	(学)穴吹学園 専門学校穴吹動物看護カレッジ 獣医師	学習ユニット・コマシラバス作成 WG
	門田 英敏	(学)産業技術学園 北海道エコ・動物自然専門学校 獣医師	学習ユニット・コマシラバス作成 WG
	関 智恵子	(学)コミュニケーションアート大阪 ECO 動物海洋専門学校 認定動物看護師	学習ユニット・コマシラバス作成 WG
田坂 安佳音	(学)国際総合学園 国際ペットワールド専門学校	学習ユニット・コマシラバス作成 WG	

	横山 晴美	(学)滋慶コミュニケーションアート 名古屋コミュニケーションアート専門学校	学習ユニット・コマシラバス作成 WG
	大坪 利久	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 事務局長	事務局
	赤柴 佳穂	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校	事務局
	(参加者合計 13 名)		
議題等	<p>【式次第／内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員長挨拶 2. 委員自己紹介 3. 事業概要説明 4. 事業進行ミーティング 5. 意見交換 6. まとめ <p>●議事内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業概要 <ol style="list-style-type: none"> (1) 獣医療体制における中核的専門人材養成の戦略的推進事業について <ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアムの下に、学習ユニット WG、職域プロジェクト（ペット産業）、大阪ペピイ動物看護専門学校が担当する職域プロジェクト（動物看護師養成）を設置 (2) 学習ユニット WG の工程について <ul style="list-style-type: none"> ・コマシラバス作成 WG がコマシラバスを作成し、それを評価・検証 WG が精査や履修内容の調査を行い、昨年度作成したモデルケースに対する学習ユニットを作成する ・本年度はコアカリキュラム全教科のコマシラバス作成とモデルケースを決定する 2. 事業進行ミーティング <ol style="list-style-type: none"> (1) 配布資料「コアカリキュラム構成」について <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料にコマシラバス案あり ・「クライアントエジュケーション」「飼養管理学」など 2 つの案があるので作成時検討 ・コマシラバス作成の際、「作成者」の部分に自分の名前を入れる ・作成したい科目を、8/6 までに作成 WG リーダーの山下に連絡をするという形で 		

登録をし、担当者が決まり次第、随時山下より担当者にコマシラバス案と科目概要のデータを送る

(2) コマシラバスについて

- ・ 学生に配布した際に、年間の授業の流れが理解できる
- ・ シラバスを見て、どのようなことが身に付くか、理解できるようになるかが分かるように表すことを文科省より要望されている
- ・ 確認テストを作成（学生が授業を理解できているかの確認として、テストをする（8/6に詳細説明））…作成委員の担当ではない
- ・ 授業シート（授業の進め方を記入）
- ・ 担当の科目概要を確認、訂正
- ・ 参考テキスト（緑書房「動物看護の教科書」、インターズー「実習テキスト」「動物栄養学」、大学協会から出るテキストなど）

(3) 進行スケジュールについて

- ・ 8月6日のコマシラバス作成 WG ミーティングにおいて、担当教科登録（担当科目確定）し作成開始
- ・ 9月中旬までにはコマシラバスを完成させ、評価検証 WG に渡す
- ・ 3月3日には成果報告会を行う

(4) 職域プロジェクト（動物看護師養成）のスケジュールについて

3. 意見交換

それぞれの WG に分かれて意見交換

4. まとめ

- ・ 作成委員のみでまかなえない部分は推薦いただいた先生にお願いする
- ・ コマシラバス作成については、数教科ごとに期限を設定し、評価検証 WG に提出する（一度に大量のコマシラバス検証は難しい為）
- ・ コマシラバス評価検証 WG（酒井、左向）が科目概要・コマシラバス案を再確認する（期限：8月4日）

※山下委員より科目概要・コマシラバス案を両委員に配信

●次回合同会議は 11月13日（木）午後に決定

以上

平成 26 年 7 月 25 日 学習ユニット全体会議（第 1 回）会議風景



会議議事録

事業名	獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業
代表校	学校法人シモゾノ学園 国際動物専門学校

会議名	平成 26 年度文科省事業 獣医療体制における中核的専門人材養成の戦略的推進事業 第一回学習ユニット・コマシラバス作成WG会議		
開催日時	平成 26 年 8 月 6 日 (水) 10:00~13:00 (3h)		
場所	(学)中央工学校 中央動物専門学校 別館 1913R		
出席者	下 藺 恵 子	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 理事長	実施委員長、学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG リーダー
	山下真理子	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 教頭	学習ユニット・コマシラバス作成 WG リーダー、コマシラバス評価・検証 WG
	石橋 妙子	(学)宮崎学園 大阪ペイイ動物看護専門学校 副校長	学習ユニット・コマシラバス作成 WG、コマシラバス評価・検証 WG
	荒岡 杉	(学)穴吹学園 専門学校穴吹動物看護カレッジ 獣医師	学習ユニット・コマシラバス作成 WG
	門田 英敏	(学)産業技術学園 北海道エコ・動物自然専門学校 獣医師	学習ユニット・コマシラバス作成 WG
	佐野 忠士	酪農学園大学 准教授	学習ユニット・コマシラバス作成 WG
	関 智恵子	(学)コミュニケーションアート大阪 ECO 動物海洋専門学校 認定動物看護師	学習ユニット・コマシラバス作成 WG
	田坂 安佳音	(学)国際総合学園 国際ペットワールド専門学校 獣医師	学習ユニット・コマシラバス作成 WG
	西家 忠治 ※奥田宏健代理	(学)加計学園 岡山理科大学専門学校 学科長	学習ユニット・コマシラバス作成 WG
	横山 晴美	(学)滋慶コミュニケーションアート 名古屋コミュニケーションアート専門学校 獣医師	学習ユニット・コマシラバス作成 WG

	若松 あゆみ	(学)宮崎総合学院 宮崎ペット ワールド専門学校 獣医師	学習ユニット・コマシラバス作成 WG
	八木 信幸	(学)有坂学園 中央カレッジ グループ	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	(参加者合計 12 名)		
議 題 等	<p>【式次第／内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員長挨拶 2. 委員自己紹介 3. 事業概要説明 4. 事業進行ミーティング 5. 意見交換 6. まとめ <p>●議事内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員長挨拶 <ol style="list-style-type: none"> (1)委員長挨拶（山下） <ul style="list-style-type: none"> ・第一回学習ユニット全体会議時に依頼していた作成担当を基にこの場で全科目分のコマシラバス作成担当者を決定させたい。 ・議事録は事務局代理で石橋が行う。 (2)コマシラバス作成 WG 工程の確認（下菌） <ul style="list-style-type: none"> ・成果報告会が早まり 2/20 頃に予定される。については全体的な工程の微調整が必要である。 2. 事業概要説明 <ol style="list-style-type: none"> (1)事業概要確認 <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料「第一回学習ユニット全体会議議事録」と「平成 26 年度成長分野等における中核的人材育成等の戦略的推進事業 取組成果概要及びイメージ図」より本事業の概要と WG の位置づけを確認。 (2)コマシラバス WG 工程と流れ <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の作成担当者の割り振りは依頼時に承諾していただいたものはそのまま決定しそれ以外はこの場で協議し決定していく。 ・作成されたコマシラバスは学習ユニット・コマシラバス評価検証 WG の酒井先生、佐向先生に随時査読してもらう。すでにたたき案（第一回学習ユニッ 		

ト全体会議配布資料)は査読中である。

- ・配布資料「工程表」から各担当者のコマシラバス作成期限は10月上旬とし、検証再調整後、コマシラバス完成を11月中としたい。
- ・作成担当者には該当科目のたたき案とフォーマットのデータを送る。

(2)各コマシラバス担当者割り振り(科目総数32科目)⇒23座学+9実習

- ・荒岡→①形態機能学
- ・石橋→②院内コミュニケーション ③クライアントエデュケーション
④動物人間関係学(ペピイ教員) ⑤動物福祉論(ペピイ教員)
⑥総合臨床実習(山下協働)
- ・奥田→⑦動物感染学 ⑧病原体・衛生管理 ⑨公衆衛生 ⑩動物病理学
- ・門田→⑪動物薬理学 ⑫動物栄養学
- ・佐野→⑬救急救命対応 ⑭外科動物看護実習Ⅰ ⑮外科動物看護実習Ⅱ
- ・関 →⑯動物看護実習Ⅰ ⑰動物看護実習Ⅱ
⑱動物臨床検査学 ⑲動物検査学実習Ⅰ ⑳動物検査学実習Ⅱ、
- ・田坂→㉑動物疾病看護学
- ・西家→㉒動物医療関係法規
- ・山下→㉓動物看護学 ㉔臨床動物看護学 ㉕総合臨床実習(石橋協働)
- ・横山→㉖飼養管理学 ㉗飼養管理学(エキゾチックアニマル)
㉘動物飼育実習Ⅰ ㉙動物飼育実習Ⅱ
- ・若松→㉚動物入院管理 ㉛幼齢動物・老齢動物管理
㉜動物健康管理 ㉝動物行動学(宮崎ペットワールド教員)
- ・小嶋→㉞動物繁殖学(山下より依頼、日小獣:コンソーシアム構成団体)

(3)コマシラバス作成要領

- ・コマシラバスは学生がその科目の全体像を把握し学び何ができるようになるのか、前後コマとの関連性を学生が理解するためのものと位置付ける。
- ・1時間(実質50分運営)／回(コマ)とし、30時間配当なら30回(コマ)で作成する。
- ・配当時間の多いものは30回を一括りとしパーツに分ける。
- ・「動物看護師養成モデルコアカリキュラム(専修学校)」から学習内容、学習目標を確認する。その際、モデルコアカリキュラムに修正追記等の提案があればその旨記述しておく。
- ・評価方法はレポート課題、試験などを記載する。
- ・教科書は現在指定がないので、担当者の采配で記載する。
- ・コマ主題、細目深度は「～ができる(ようになる)」と具体的に学生が習得すべき内容を記載する。
- ・コマ主題細目は項目、細目深度はその項目に対して何ができるようになるか

- を現わすもので、授業時間から最大3つを目安とすると良い(1つでも良い)。
- ・コマの間に確認テストを盛り込むのも良い。学生がその出来具合から自己の達成度を分析できコマとの関連性が明確化される。
 - ・繰り返し習得させる設計も良い。確実に身に付けさせることを専修学校の教育目標とする。

3. 事業進行ミーティング

(1) 各コマシラバス提出期限及び方法について

- ・10/10(金)最終締め切り、山下へメールで提出する(複数担当する場合は完成したものから随時提出してほしい)。
- ・提出されたものから随時、評価者(酒井、左向)に転送し査読してもらう。
- ・11/13(木)に第二回学習ユニット全体会議を予定している。

(2) ミーティング・質疑・まとめ

- ・関連性の深い科目ではコマ内容が科目間で重複する可能性があるが、テーマ上必要であれば繰り返し学習として設計すると良い。
- ・関連性の深い科目について、開講するタイミングは流れになっておれば良いがコマシラバス作成時では考慮しない。(必要であれば関連知識を盛り込んだり、復習したり、開講タイミングは学内で構成するのがベスト)
- ・配当時間の多い科目ではテーマの順番(流れ)は担当者の采配でおこなう。教科書通りでなくても良い。
- ・現在、科目の開講時期は各校により様々だがコアカリキュラムとしてある程度の基準は必要である。「コアカリキュラム構成表」に記す「専門基礎分野」と「専門分野」を目安に及び「Ⅰ」「Ⅱ」に分かれている科目は「Ⅰ」の後に「Ⅱ」を開講する。さらに配布資料(年間の時数計算から年次分けした表)を参考にすると良い。実際運営は各校に委ねる。
- ・コマシラバスフォームの「省庁分類」は必要ではないので、「履修要件」などに変更するのはどうか。各担当者に配信する際に変更しておく。
- ・「動物栄養学」はパーツに分けた際、一部は1年次でも2年次でも開講時期として考えられるが、今回は担当者の采配に任せる。
- ・実習科目のコマ配当は2コマ続き、3コマ続きなど各校の運営状況は様々であるが、単位換算を考慮しコマ数は45時間(回)で作成する。
- ・コアカリキュラム実施校と認定資格試験受験資格の評価方法の基準はまだないが、教育効果の評価と学習ユニット開発のためにもコマシラバスは必須であると考える。
- ・コマシラバス実施において、実習科目では機器を揃えなければならないことになるだろう。

4. 意見交換

昼食をとりながら各自意見交換

5. まとめ

- ・コマシラバス作成担当者へは山下より該当科目のたたき案をメール配信する。
- ・コマシラバス提出最終期限は 10/10（金）メール添付にて山下 WG リーダーまで。（複数科目担当者は随時提出して欲しい）

●次回合同会議は 11月13日（木）午後

以上

平成 26 年 8 月 6 日 学習ユニット・コマシラバス作成 WG（第 1 回）会議風景



会議議事録

事業名	獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業
代表校	学校法人シモゾノ学園 国際動物専門学校

会議名	平成 26 年度文科省事業 獣医療体制における中核的専門人材養成の戦略的推進事業 第一回コンソーシアム実施委員会	
開催日時	平成 26 年 9 月 2 日 (火) 13:30~15:45 (2.25h)	
場所	東京八重洲ホール 201 会議室	
出席者	ご来賓(2名)	
	倉本 光正	生涯学習推進課専修学校教育振興室 室長補佐 ご来賓
	大坂 香織	生涯学習推進課専修学校教育振興室 専門官 ご来賓
	実施委員会委員 (構成機関・構成員) (22名)	
	下菌 恵子	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 実施委員長
	坂元 祥彦	(学)宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校 調査・研究
	下田尾 誠	(学)中央総合学園 高崎ペットワールド専門学校 調査・研究
	小嶋 佳彦	一般社団法人 日本小動物獣医師会 調査・研究
	太田 宗雪	(株)インターズー 調査・研究
	井上 舞	アニコム損害保険(株) 調査・研究
八木 信幸	(学)有坂中央学園 研究開発	

坂本 敏	(学)中央工学校 中央動物専門学校	研究開発
石橋 妙子	(学)宮崎学園 大阪ペピイ動物看護専門学校	研究開発
山下 眞理子	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校	研究開発
吉田 多華子	(学)日本環境科学学院 専門学校アニマルインターカレッジ	研究開発
中野 勸次郎	(学)爽青会 専門学校ルネサンス・ペット・アカデミー	研究開発
下藪 智一	(学)シモゾノ学園 大宮国際動物専門学校	研究開発
重野 一眞	公益社団法人 日本動物病院協会	研究開発
平野 圭二	(株)ファームプレス	研究開発
森田 浩平	(株)緑書房	研究開発
生田目 康道	(株)J P R	研究開発
高木 達也	(株)C R I 中央総研	研究開発
中島 利郎	(学)有坂中央学園	評価・検証
伊藤 優作	(学)坪内学園 専門学校松江総合ビジネスカレッジ	評価・検証
河原 成紀	(学)河原学園 アイペットワールド専門学校	評価・検証
水町 圭一	(学)中村学園 専門学校ちば愛犬動物フラワー学園	評価・検証
実施委員会委員 (協力者等) (4名)		
酒井 健夫	日本大学 名誉教授	評価・検証
新井 敏郎	日本獣医生命科学大学	評価・検証

横田 淳子	一般社団法人 日本動物看護職協会	研究開発
原 大二郎	獣徳会 動物医療センター／公益社団法人 日本動物病院協会	研究開発
実施委員会委員 (同行者等) (5名)		
永井 正三	(学)宮崎学園 大阪ペピイ動物看護専門学校 事務局長	職域プロジェクト(動物看護師養成)事務局
檜山 道成	(学)宮崎学園 大阪ペピイ動物看護専門学校 事務部長	職域プロジェクト(動物看護師養成)事務局
苅谷 直子	(学)宮崎学園 大阪ペピイ動物看護専門学校	職域プロジェクト(動物看護師養成)実施委員
栗栖 奈津美	(学)宮崎学園 大阪ペピイ動物看護専門学校	職域プロジェクト(動物看護師養成)実施委員
千葉 江梨子	(学)日本環境科学学院 専門学校 アニマルインターカレッジ	職域プロジェクト(動物看護師養成)実施委員
事務局(4名)		
大坪 利久	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 事務局長	事務局
岸田 昌也	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 課長	事務局
有倉 豊	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校	事務局
赤柴 佳穂	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校	事務局
(参加者合計 37名)		

議 題 等	<p>【式次第／内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会挨拶 2. 来賓挨拶 3. 実施委員紹介 4. 事業内容について 5. WG の課題について（概要紹介） 6. その他 <p>●議事内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会挨拶 下菌委員長より 2. 来賓挨拶 文部科学省 生涯学習政策局 生涯学習推進課 専修学校教育振興室 室長補佐 倉本光正 様より <p>(1)平成 26 年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業 について＜配布資料 1＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本再興戦略（P. 3） ・成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進（P. 5） ・分野について（P. 7） ・具体的取組内容・方針（P. 10～14） ・産業界と教育界の対話と協働によるオーダーメイド型の実践的職業（P. 15） ・工程案（P. 18） ・採択状況（P. 23～） <p>(2)成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進（平成 27 年度概算予 算書抜粋）＜配布資料 2＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度は地域版学び直し教育プログラムの開発・実証を拡充 <ol style="list-style-type: none"> 3. 実施委員紹介 4. 事業内容について＜配布資料 3＞ <ol style="list-style-type: none"> (1)事業の背景 <ul style="list-style-type: none"> ・企業ニーズに即した社会人の学び直しについて（P. 4） ・女性の学び直しプログラムについて（P. 6）
-------------	---

- ・厚生労働省「職業能力評価研究会」報告のポイントと「職業能力の見える化」について (P. 7~8)
- ・履修証明制度について…120 時間以上授業を受講すると履修証明書を発行出来る

(2) 平成 25 年度成果概要

- ・WG 及び分科会の体制 (P. 10)
 - 1 コンソーシアム・1 職域プロジェクト体制
- ・学習ユニット開発 WG (P. 11)
- ・関連職域調査研究 WG (P. 12)
- ・ペット産業のマネージャー養成分科会 (P. 13)
- ・動物看護師コアカリキュラム検証分科会 (P. 14)

(3) 平成 26 年度の事業計画 (概要)

- ・体制比較 (P. 16)
 - 本年度は 1 コンソーシアム・2 職域プロジェクト体制
- ・実証講座について (P. 17)

5. WG の課題について (概要紹介)

(1) 獣医療体制分野産学連携コンソーシアム<配布資料 4>

- ・学習ユニット・コマシラバス作成 WG、学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG の 2 つの WG がある
- ・コンソーシアム構成団体について (P. 2)
 - 12 専門学校、5 団体、7 企業で構成されている
- ・平成 25 年度モデルカリキュラムの開発例 (P. 4)
- ・取組概要、成果目標 (P. 5~6)
 - 【コマシラバス作成 WG】
 - ・昨年度作成したコマシラバスをたたき台に、全ての教科のコマシラバス化
 - ・学習ユニット工程イメージ (P. 8)
 - 【コマシラバス評価・検証 WG】
 - ・学生が「できるようになる」コマシラバスにすることを目標
 - ・考えられるモデルケース (P. 10)
 - ・実施スケジュール (P. 11)

質問・意見

- ・文科省資料の P. 5、P. 9 を反映させ成果設定を詰めていかなければならない

(2) 職域プロジェクト（ペット産業）＜配布資料 5＞

【関連職域調査研究 WG】

- ・ 昨年度の対象者・成果と本年度の目標

昨年度の実態調査の結果を基に、本年度は2つのアンケート調査を実施

- ① 動物飼育経験のある方を対象にサービスの満足度、人材像や資格について、医療費について等の求めるサービス…Webによるアンケート調査
(目標 約1,000名)
- ② 飼育経験のない方を対象に、動物病院のイメージ等…動物関係以外の専門学校に依頼

【マネージャー養成科目開発検証 WG】

- ・ 昨年度の対象と成果

昨年度は動物病院で働くマネージャーを養成する要素について等の調査、マネージャーやリーダー等の階層別研修の試案作成

- ・ 本年度の事業方針

平成26年度は、「マネージャー養成研修標準プログラム」作成・「コマシラバス」作成・実証検証

※「マネージャー養成研修標準プログラム」について

人材マネジメント・オペレーションマネジメント・戦略的マネジメント・マーケティング・財務管理・ITマネジメントの6分野に分類し再構成

- ・ 講習会日程について（予定）

11月29日（東京）・12月14日（札幌）・1月11日（宮崎）

質問・意見

- ・ 各病院でマネジメントを担当している方はどれくらいいるのか

→現在、3名程の獣医師と5~6名の動物看護師を雇用している動物病院が増えてきているが、そのような動物病院では看護師がきちんとマネジメントを担当していると考えられる（ただし、国内の7割の病院は獣医師1名動物看護師2~3名という家族経営のような体制なので、マネジメントを担当する者はいない）

- ・ 6分野に分けたマネジメント分野の名称を変えた方が良いのではないか

(3) 職域プロジェクト（動物看護師養成）＜配布資料 6＞

- ・ 臨床系科目検証WGとコミュニケーション系科目検証WGの2つのWGがある
- ・ 取組成果概要について

昨年度開発した2科目に3科目追加し合計5科目の実証講座を東京・仙台・

高松・札幌の4カ所で行い、テキストの作成と受講者アンケート、評価者評価表を成果物とする。

【臨床系科目検証WG】

- ・臨床動物看護学（対象：専門学校教員）、動物栄養学、動物看護学（対象：現役の動物看護師）の3科目の実証講座を行う
- ・各科目の授業方法、成果、活用について

【コミュニケーション系科目検証WG】

- ・クライアントエデュケーション（対象：専門学校教員）、院内コミュニケーション（対象：現役の動物看護師）の2科目の実証講座を行う
- ・各科目の授業方法、成果、活用について
- ・スケジュールについて
- ・授業シート、授業カルテ、アンケート、評価表、コマシラバスの説明

質問・意見

- ・学生に対して学習目的を明確にすることでコマシラバスの有用性がある
- ・評価をしていく中では教育の質保証を的確にやることと到達度を明確にすることが大切
- ・コマシラバス作成にあたり、動物看護師の教育の質保証の為にも作成委員の関係者の方はぜひサポートをしていただきたい
- ・委員会の第三者評価をすべきである
- ・日本動物園水族館協会の理事の方から、コマシラバスが出来た暁には報告が欲しいとの要望があり、この事業は、動物看護師だけではなく動物に係わるもののユニット化にもつながるのではないか

6. その他

- 次回実施委員会は 12月16日（火）15:30～に決定

以上

平成 26 年 9 月 2 日 コンソーシアム実施委員会（第 1 回）会議風景



会議議事録

事業名	獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業
代表校	学校法人シモゾノ学園 国際動物専門学校

会議名	平成 26 年度文科省事業 獣医療体制における中核的専門人材養成の戦略的推進事業 第一回学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG 委員会		
開催日時	平成 26 年 9 月 30 日 (火) 15:30~17:45 (2.25h)		
場所	国際動物専門学校 本館 4 階		
出席者	下 菌 恵子	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 理事長	実施委員長、学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG リーダー
	八木 信幸	(学)有坂中央学園	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	酒井 健夫	日本大学 名誉教授	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	左向 敏紀	日本獣医生命科学大学 教授	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	坂元 祥彦	(学)宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校 校長	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	坂本 敏	(学)中央工学校 中央動物専門学校 校長	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	山下 真理子	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 教頭	学習ユニット・コマシラバス作成 WG リーダー、コマシラバス評価・検証 WG
	赤柴 佳穂	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校	事務局
(参加者合計 8 名)			

議 題 等	<p>【式次第／内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業進捗確認 2. 学習ユニットモデルケースの確認 3. 到達目標について 4. 学習ユニットモデルケース作成の工程確認 5. 協力者について 6. 外部評価について <p>●議事内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業進捗確認（コマシラバス作成 WG 進捗） <ul style="list-style-type: none"> 「第1回 学習ユニット・コマシラバス評価検証 WG 会議 資料」に沿って説明。 (1)「第1回学習ユニット・コマシラバス作成 WG 会議」時に提示した内容 <ul style="list-style-type: none"> ・コマシラバスを作る意味、作成するにあたっての手法と留意点等。 (2)コマシラバスを作成するにあたって、評価検証委員からのご指導 <ul style="list-style-type: none"> ・評価委員の先生方よりいただいた総評指導内容を、作成委員に情報共有として配信済み。 (3)進捗状況 <ul style="list-style-type: none"> ・32教科中9教科の返送があった(9月28日現在)。 (4)問題点 <ul style="list-style-type: none"> ・指導内容に沿って作成されていないものがある、等。 <p><u>意見</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・編集委員を組み、組織として対応する（3名がベスト）。 ・学生が、コマシラバスの“概要”を見ればその教科の全てが分かるような内容にしなければならない。 ・未提出の先生方に途中経過を伺い、指導内容に沿っているかを再確認してもらう。 ・書き方を統一する（概要は行数をそろえる、評価方法の統一）。 <ol style="list-style-type: none"> 2. 学習ユニットモデルケースの確認 <p>酒井委員作成の図表資料に沿って説明。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)動物看護師養成標準モデルカリキュラムの開発 <ul style="list-style-type: none"> ・真ん中の逆三角形部分が、この事業で求められているもの。 ・左下の三角部分のリベラルアーツ教育は、4年生大学で求められる教育。 ・右下の三角部分のアドバンス教育は、各学校で特色(地域性等)のある教育を行うこととし、次年度以降の課題とすべきである。
-------------	---

(2) 動物看護師養成標準モデルカリキュラム対応のコマシラバス作成と実証講座による検証

- ・コマシラバスが完成したときに全ての立証検証を行い、次年度以降には科目検証を行う。
- ・科目検証の結果をふまえ改善をしていく（一度で終わらせるのではなく毎年行う）。
- ・検証システムを開発する。

(3) 人材養成モデルの策定と期待される成果

- ・最終目標は、中核的専門人材として就職又は再就職できる人材を作ること。

意見

- ・中退者等の人材再生プログラムを構築するためには、専門学校も単位制にしていくのが望ましいのではないかと。

3. 到達目標について

「評価・検証作業の進め方について(課題整理)」に沿って説明。

(1) 評価・検証作業の概要

- ①「到達目標」を設定する。
- ②学習プログラム・教育カリキュラムを整理する。
- ③教育カリキュラムを基に、コマシラバス等を作成し、アウトカムを描く。
- ④設計したカリキュラムで、到達目標を達成することが出来るかを検討。
- ⑤設計した通りに講義・演習・実習が行われているかを評価する。
- ⑥授業により知識・スキルが修得できたかを測定する。
- ⑦成績を集計し、到達目標と比較・検証する。
- ⑧「学習サービス評価報告書(仮称)」として検証結果をとりまとめる。

※①が弱い、②と③を進めているという現状。

(2) 到達目標の設定について

- ・“中核的専門人材として就職又は再就職できる人材”が、こういったコンピテンシー(高業績者の行動特性)を持っているのかを描かなければならない。
- ・コンピテンシーの項目を数十項目は作った方が良い(数百では多い)。
- ・「動物看護師として求められる人材像」は現在挙げられている5項目。
 - ①獣医療に於ける動物看護の知識と技術を修得している(認定資格有資格者)

- ②人と動物の共生から、公衆衛生を理解し実践できる
 - ③アニマルウェルフェア（動物福祉）を理解し実践できる
 - ④獣医療の質の向上をめざし、社会のニーズに応じた地域貢献ができる
 - ⑤コミュニケーション能力を駆使し、人と動物の調和のとれた社会創りに貢献できる)。
- ・32科目をクリアすれば、「動物看護師として求められる人材像」に到達できる。
 - ・コマシラバスの概要に書かれていることが出来るようになるカリキュラムかどうかを評価する。
 - ・参考までに①OECDのDeSeCoプロジェクトによるキー・コンピテンシー、②21世紀型能力、③コンピテンシーに関わる日本の動向の資料有。

(3) 動物看護師のコンピテンシー

4. 学習ユニットモデルケース作成の工程確認

- ・10月12～13日 第1回編集委員会開催(シラバス概要確定)
- ・10月21～22日 第2回編集委員会開催予定(コマシラバス内容検討)
※10月末までに酒井委員、左向委員に渡して見てもらう。
- ・11月13日 第2回コマシラバス合同委員会
- ・12月10日 13:30～16:30 第2回コマシラバス評価・検証WG委員会(学習ユニット調整・完成予定)

※協力校のネットワークを作って32科目を検証する。

5. 協力者について

新井敏郎先生をお呼びしてグローバルスタンダードについて検討する(第3回コマシラバス評価・検証委員会{1月開催予定})。

6. 外部評価について

- 評価委員長 政岡俊夫先生
- 評価委員 野上貞雄先生、藤田桂一先生

※成果報告会(2/18)以前に評価委員会を開催し、報告会にもお呼びする。

※事業内容をプレゼンし評価コメントをいただく。

以上

平成 26 年 9 月 30 日 学習ユニット・コマシラバス評価検証 WG（第 1 回）

会議風景



会議議事録

事業名	獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業
代表校	学校法人シモゾノ学園 国際動物専門学校

会議名	平成 26 年度文科省事業 獣医療体制における中核的専門人材養成の戦略的推進事業 学習ユニット・コマシラバス作成WG 第一回編集委員会会議		
開催日時	平成 26 年 10 月 12 日 (土) 10:00~17:00 (7h)		
場所	(学)宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校		
出席者	山下真理子	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 教頭	学習ユニット・コマシラバス作成 WG リーダー、コマシラバス評価・検証 WG
	若松 あゆみ	(学)宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校 獣医師	学習ユニット・コマシラバス作成 WG
	(参加者合計 2 名)		
議題等	<p>【議事内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コマシラバス評価検証委員から提議があった「シラバス概要」について確認をした 2. 32 教科を担当委員に振り分けて全教科のコマシラバスを作成していただき、回収をしたが、事前に通達した（評価検証委員からの注意点）作成上の注意点が守られている教科が少なかったため、回収した教科のシラバス概要部分を中心に見直しをすることにした 3. 編集委員が個人レベルで見直しをするより、複数人で平面に並べ、次の項目について統一化を図れるように検討した <ul style="list-style-type: none"> ・文章の統一（長さ） ・キーワードが学生にわかるような文章 ・シラバスを読むことによって学生の教科の理解が進むようにする ・できれば評価方法の統一をし、明記する 4・若松委員と分担し、回収したコマシラバスの評価をした 若松委員担当 		

- ① 動物行動学 ②動物健康管理学 ③公衆衛生 ④感染症学 ⑤病原体・衛生管理 ⑥幼齢動物・高齢動物管理 ⑦飼育管理学

山下担当

- ① 栄養学 ②薬理学 ③疾病動物看護学 ④動物看 gotoh <gotoh@digital-pro.co.jp>護学 ⑤臨床検査学 ⑥救急救命処置 ⑦動物福祉論 ⑧臨床動物看護学 ⑨動物形態機能学 ⑩動物医療関連法規 ⑪実習各種

5. 上記の見直しは10月中とし、その後評価検討委員にデータを渡す

6・コマシラバス各コマ部分については、再度編集委員会を開催して精査する必要がある（例：30時間以上コマ時の掲示数字、文章内で使用する数字の形態、次コマとの関連を表記する時の言葉など）

以上

会議議事録

事業名	獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業
代表校	学校法人シモゾノ学園 国際動物専門学校

会議名	平成 26 年度文科省事業 獣医療体制における中核的専門人材養成の戦略的推進事業 学習ユニット・コマシラバス作成WG 第二回編集委員会		
開催日時	平成 26 年 11 月 5 日 (水) 9:30～16:30 (6h・昼休憩 1h)		
場所	(学)宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校		
出席者	山下真理子	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 教頭	学習ユニット・コマシラバス作成 WG リーダー、コマシラバス評価・検証 WG
	石橋 妙子	(学)宮崎学園 大阪ペピイ動物看護専門学校 副校長	学習ユニット・コマシラバス作成 WG、コマシラバス評価・検証 WG
	若松 あゆみ	(学)宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校 獣医師	学習ユニット・コマシラバス作成 WG
	(参加者合計 3 名)		
議題等	<p>【式次第／内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コマシラバス文言統一化の検討 2. コマシラバス修正個所の洗い出し 3. コマシラバス修正作業 <p>●議事内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コマシラバス文言統一化の検討 <ol style="list-style-type: none"> (1) 山下リーダーより <ul style="list-style-type: none"> ・コマシラバス作成 WG メンバーに提出していただいた科目別コマシラバスで、用語にばらつきが見られる。現在、教育現場や出版物などでもばらつきが見 		

られるが、コマシラバス作成において使用する用語はそれぞれ相応しい文言の統一を行いたい。

(2) 統一文言が求められる用語の修正

- ① 動物医療・獣医療→「獣医療」に統一
※「チーム獣医療」も使用される
- ② 患者動物・看護動物・動物→「看護動物」に統一
- ③ 飼い主・飼主・家族→「飼い主」に統一
※「飼い主家族」や「飼い主とその家族」も使用される
- ④ 動物病院・動物診療施設→「動物病院」
- ⑤ 動物看護師・看護師→「動物看護師」
- ⑥ 人獣共通感染症・動物由来感染症→「人獣共通感染症」
※「人獣共通感染症(zoonosis)」も使用される
- ⑦ 人・ヒト→「ヒト」 ※カタカナで統一
- ⑧ 犬・イヌ→「イヌ」 ※カタカナで統一
- ⑨ 猫・ネコ→「ネコ」 ※カタカナで統一
※「ウサギ」「ウマ」「ヒツジ」など動物種はすべてカタカナを使用
- ⑩ 子イヌ・仔ネコ→「子イヌ」「子ネコ」で統一

(3) その他、統一した個所

- ① 作成者名→「コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員会」で統一
- ② 数字表記→科目名に付ける場合は「I」※ローマ数字
同カテゴリーの追番に用いる数字表記→「①」※丸付数字
- ③ 評価方法の表記→「評価項目（筆記試験・提出物・受講態度・小試験・出席率・実技試験）及び合格基準は各校に準ずる」
- ④ 学科名の表記→「動物看護系学科」で統一
- ⑤ 教科書の表記→「各校の選択に準ずる」で統一
- ⑥ 参考図書の表記→「本の表題（出版社名）」で統一
※学生が使用する教科書と教員の参考図書が混在していたため分けた
- ⑦ 「単位」の表記→配当時間に換算した単位数（構成表に準ずる）
※分割した科目は分割した単位と科目全体の単位を表記しておく
- ⑧ ヘッダー・フッターの表記→ヘッダー中央に「科目名」、フッター左端に「科目名」及び右端に「ページ番号／総ページ数」で統一

(4) 今後検討が必要な事項

- ① 「履修年度」「学年」「期」の表記→履修条件として目安を入力しておくか？
- ② 科目間で関連する事項は、教授時期と内容を摺り合わせる必要がある

2. コマシラバス修正個所の洗い出し

- (1) シラバス概要の科目概要部分は酒井先生及び左向先生に監修いただいた文章を用い、さらに文言を統一する。
 - (2) 石橋が各科目のシラバス概要部分を監修文章及び統一事項に沿って修正する。(修正済みデータを山下リーダーに送る)
 - (3) 各科目のコマシラバス部分は担当者が修正する。
 - ① 山下→動物疾病看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、動物看護学、臨床動物看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、動物栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、救命救急、動物関連法規
 - ② 若松→動物行動学Ⅰ・Ⅱ、動物疾病看護学、動物感染症学Ⅰ・Ⅱ、病原体衛生管理、動物健康管理、公衆衛生学、飼養管理学Ⅰ・Ⅱ、動物入院管理、幼齢動物・老齢動物、飼育実習Ⅰ-①・Ⅰ-②、飼育実習Ⅱ-①・Ⅱ-②・Ⅱ-③
 - ③ 荒岡→動物形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、動物看護実習Ⅰ-①・Ⅰ-②、動物看護実習Ⅱ-①・Ⅱ-②・Ⅱ-③
 - ④ 佐野→外科動物看護実習Ⅰ、外科動物看護実習Ⅱ
 - ⑤ 石橋→動物薬理学、動物臨床検査学、院内コミュニケーションⅠ・Ⅱ、クライアントエデュケーション、動物人間関係学、動物福祉論、臨床検査学実習Ⅰ-①・Ⅰ-②、臨床検査学実習Ⅱ-①・Ⅱ-②、総合臨床実習
- ※「動物繁殖学」、「動物病理学」は作成中
- ※配当時間が多い科目は、講義：30時間ごとに分割、実習：45時間ごとに分割する。

3. コマシラバス修正作業

- ・出席者全員で決定事項について修正作業を行った。
- ・修正済みの科目は次回学習ユニット合同会議(11/13)の資料とするため、山下リーダーにデータを送る。

以上

会議議事録

事業名	獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業
代表校	学校法人シモゾノ学園 国際動物専門学校

会議名	平成 26 年度文科省事業 獣医療体制における中核的専門人材養成の戦略的推進事業 第二回学習ユニット全体会		
開催日時	平成 26 年 11 月 13 日 (木) 13:30~15:45 (2.25h)		
場所	コンベンションルーム・A P 品川ルーム E		
出席者	下 藺 恵子	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 理事長	実施委員長、学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG リーダー
	八木 信幸	(学)中央カレッジグループ	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	山下 真理子	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 教頭	学習ユニット・コマシラバス作成 WG リーダー、コマシラバス評価・検証 WG
	石橋 妙子	(学)宮崎学園 大阪ペイ動物看護専門学校 副校長	学習ユニット・コマシラバス作成 WG、コマシラバス評価・検証 WG
	酒井 健夫	日本大学 名誉教授	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	左向 敏紀	日本獣医生命科学大学 教授	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	坂元 祥彦	(学)宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校 校長	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	坂本 敏	(学)中央工学校 中央動物専門学校	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	奥田 宏健	(学)加計学園 岡山理科大学専門学校	学習ユニット・コマシラバス作成 WG
	佐野 忠士	酪農学園大学 准教授	学習ユニット・コマシラバス作成 WG
荒岡 杉	(学)穴吹学園 専門学校穴吹動物看護カレッジ 獣医師	学習ユニット・コマシラバス作成 WG	

	門田 英敏	(学) 産業技術学園 北海道エ コ・動物自然専門学校 獣医師	学習ユニット・コマシラバス作成 WG
	関 智恵子	(学) コミュニケーションアート 大阪 ECO 動物海洋専門学校 認定 動物看護師	学習ユニット・コマシラバス作成 WG
	田坂 安佳音	(学) 国際総合学園 国際ペット ワールド専門学校	学習ユニット・コマシラバス作成 WG
	横山 晴美	(学) 滋慶コミュニケーションアート 名古屋コ ミュニケーションアート専門学校	学習ユニット・コマシラバス作成 WG
	大坪 利久	(学) シモゾノ学園 国際動物専 門学校 事務局長	事務局
	赤柴 佳穂	(学) シモゾノ学園 国際動物専 門学校	事務局
	(参加者合計 17 名)		
議 題 等	<p>【式次第／内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第二回会議資料確認 2. 委員長挨拶 3. コマシラバス評価・検証 WG 進捗報告 4. コマシラバス作成 WG 進捗報告 5. 意見交換 6. まとめ <p>●議事内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第二回会議資料確認 2. 委員長挨拶 下菌委員長より 3. コマシラバス評価・検証 WG 進捗報告 「第一回コマシラバス評価・検証 WG 委員会議事録」に沿って説明。 ・コマシラバスの統一感を図る為に編集委員を選出し、編集委員で文言の統一を含めて検討を進めることとなった。 ・酒井委員作成の学習ユニットモデルケースの図表についての説明。 ・到達目標について、評価・検証作業は①～⑧の手順で進めることとした。 ・“④設計したカリキュラムで、到達目標を達成することが出来そうかを検討” 		

- をする為には“①「到達目標」を設定する”が必ず出来ていないといけない。
- ・職業実践専門課程にも繋がる方法である。

4. コマシラバス作成 WG 進捗報告

- 「コマシラバス作成 WG、編集委員会」資料に沿って説明。
- ・受講する学生が“シラバス概要”を読んで、何が分かるようになるか、何を学ぶことが出来るようになるかを理解できることが重要である。
 - ・当初の予定には無かった、“編集委員”を編成し、二回（10/12、11/5）委員会を行った。
 - ・編集委員は、各委員から提出されたコマシラバスの概要の統一性、コマの書き方、文字・数字の使い方、テキストの提示の仕方等の統一性を図るために必要であるということで編成された。
 - ・第一回編集委員会では誰がどの科目の見直しを担当するかを決めた。
 - ・第二回編集委員会では、統一文言が求められる用語の修正、その他統一した箇所についての検討、コマシラバス修正箇所の洗い出しを行った。

意見

- ・評価方法については、学校によってある程度自由度を持たせた方が良い。
- ・生徒に不利益を与えてはいけない。→評価方法を明記しておく。
- ・年次配当と履修順位についても議論すべきである。

5. 意見交換

(1) 第2回編集委員会議事録 1-(3) その他、統一した箇所についての確認

- ・①作成者名→「コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員」で統一。
成果物には一覧で作成者を載せる。
- ・③評価方法の表記→講義は筆記試験、実習は実技試験を必須項目として、他に必要な評価項目は囲み文字で表す。（最低限必要なものは統一し、加味するものがあれば各学校に任せる。）
演習においては評価方法が定めにくいので、例えば PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）を導入してはどうか。※要検討
- ・⑦講義は 30 時間で 1 単位、実習は 45 時間で 1 単位。
- ・⑧ヘッダー・フッターの表記→ヘッダーのみとする。

(2) 学習ユニットの組み方について

- ・昨年度提示をしたのは、2 年課程を標準としたときに 1 年生で学ぶ部分を夜間や夏季・冬季の集中講義等で取れるようにして（働きながら学んでもらい）、残りの 1 年（2 年生で学ぶ部分）を通学すれば要件を満たすという形

で、統一認定試験受験資格を取れるコース。

- ・ある程度経験はあるが、コアカリの科目全てを履修していない方が統一認定試験を受験したいとした時に、どの部分は過去のを認めてもらえるのか、また職業として5年・10年の経験のある方には、ここの部分の実習はみなしで認めるというようなことを整理した方が良いのではないか。
- ・上記の内容を整理すれば、比較的短期間で受験の要件を満たせるようになり、専門学校に来てもらえる人を増やせるのではないか。
- ・動物看護師も、職業訓練給付金の対象となるように目指すべきである。

意見

- ・認定方式をどうするか。
- ・通信教育で認定できるようにしていければ、出来るだけ負担のかからないようになって良いのではないか。
- ・統一認定機構は、正規のプログラムを受けていないと認めないというのが現状。
- ・履修証明を発行したり、科目履修生という形で対応したりすべきである。
- ・獣医師、動物看護師の職域の整理をする。

●2015年2月18日（水）に成果報告会を開催

以上

平成26年11月13日 学習ユニット全体会議（第2回）会議風景



会議議事録

事業名	獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業
代表校	学校法人シモゾノ学園 国際動物専門学校

会議名	平成 26 年度文科省事業 獣医療体制における中核的専門人材養成の戦略的推進事業 第二回学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG 委員会		
開催日時	平成 26 年 12 月 10 日 (水) 13:30~16:00 (2.5h)		
場所	国際動物専門学校 本館 4 階		
出席者	下 菌 恵子	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 理事長	実施委員長、学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG リーダー
	八 木 信幸	(学)有坂中央学園	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	左 向 敏紀	日本獣医生命科学大学 教授	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	坂 元 祥彦	(学)宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校 校長	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	坂 本 敏	(学)中央工学校 中央動物専門学校 校長	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	山 下 真理子	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 教頭	学習ユニット・コマシラバス作成 WG リーダー、コマシラバス評価・検証 WG
	石 橋 妙子	(学)宮崎学園 大阪ペピイ動物看護専門学校 副校長	学習ユニット・コマシラバス作成 WG 副リーダー、コマシラバス評価・検証 WG
	赤 柴 佳穂	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校	事務局
欠席者：酒井 健夫			
(参加者合計 8 名)			

議 題 等	<p>【式次第／内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第二回コマシラバス評価・検証 WG 会議資料確認 2. リーダー挨拶 3. 学習ユニット開発についての説明 4. モデルユニット開発、コマシラバス確認 5. まとめ <p>●議事内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第二回コマシラバス評価・検証 WG 会議資料確認 2. リーダー挨拶 下菌委員長より 3. 学習ユニット開発についての説明 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「ユニット」が指す対象について <ol style="list-style-type: none"> ①基礎となるユニット <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度の本事業で上げた成果として、各科目単位を 30 時間 1 コマとして 1 つのユニットを作りコアカリキュラムを見直した。 →30 時間より多い科目は、例えば「動物感染症学 1、動物感染症学 2…」とし 30 時間ずつの 1 つの科目（ユニット）とした。 ②モデルユニット <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習する人のために、ユニットを組み合わせたパターンの提示。 ・ 履修証明書の発行（120 時間以上の教育に対して発行出来る）。 →他の学校においても単位認定しやすいユニットを組み立てる。また、学び直しにも有効なユニットを作る。 (2) 学習ユニット開発について <ul style="list-style-type: none"> ・ 配布資料「2014 年度生 履修科目一覧・経営学」の表を元に、動物看護師統一認定機構の移行期間が終了した後の学び直しで、受講者が受講したいと思う科目を想定して組み合わせを見つける。 ・ 表の“授業科目”の部分が各学校ではどの名称の科目かを振り分ける。 ・ 水色で色付けされている科目（コアカリ）を標準的な科目として一つのユニットとしたらどうか。 ・ 実際に認定をするかは受け入れる側の学校の判断となる。 →ユニット開発をする目的は、例えば動物看護学科以外を学習した者に動物看護学科のカリキュラムを提供するため。
-------------	---

4. モデルユニット開発、コマシラバス確認

動物看護以外の学科でコアカリに入っていない科目（モデルとして、国際動物専門学校・中央動物専門学校・宮崎ペットワールド専門学校の3校で照合する）

- ・ 臨床動物看護学
- ・ 動物入院管理
- ・ 救急救命対応
- ・ 動物病理学
- ・ 動物疾病看護学
- ・ 院内コミュニケーション
- ・ 動物薬理学
- ・ 幼齢動物・老齢動物管理学
- ・ 動物臨床検査学
- ・ クライアントエジュケーション
- ・ 動物看護実習Ⅱ
- ・ 動物臨床検査学実習Ⅰ・Ⅱ
- ・ 外科動物看護実習Ⅰ・Ⅱ
- ・ 動物飼育実習Ⅱ

※ e-ラーニングや通信教育に対応できる科目とは？

※ 履修証明書を発行できる実習と講義の一般的な組み合わせは？

動物看護実習→動物入院管理、動物福祉論など

動物臨床検査学実習→動物臨床検査学

外科動物看護実習→救急救命対応

<講義の組み合わせ>

◎ 始めに学ぶ科目は、高位平準動物看護概論（45時間）・動物看護学（30時間）・動物福祉論（15時間）・動物栄養学（60時間）・動物薬理学（30時間） 計 180時間

◎ その他必要な科目は、臨床動物看護学（90時間）・動物疾病看護学（90時間）・院内コミュニケーション（30時間）・幼齢動物・老齢動物管理学（15時間）
計 225時間

<講義+実習の組み合わせ>

◎ 動物入院管理（30時間）・クライアントエジュケーション（30時間）・動物看護実習Ⅰ（90時間）・動物看護実習Ⅱ（135時間） 計 285時間

◎ 動物臨床検査学 (30 時間)・動物臨床検査学実習 I (90 時間)・動物臨床検査学実習 II (135 時間) 計 255 時間

◎ 救命救急対応 (15 時間)・外科動物看護実習 I・II (共に 45 時間)・動物飼育実習 I・II (共に 15 時間) 計 135 時間

上記を実際に受講する場合は e-ラーニング等を組み合わせて行う。

5. まとめ

「高位平準動物看護概論」(45 時間)

動物形態機能学、病原体・衛生管理、公衆衛生学、動物感染症学、動物人間関係学、動物病理学、飼養管理学をまとめた科目とする。

以上

平成 26 年 12 月 16 日 コンソーシアム実施委員会(第 2 回) 会議風景



会議議事録

事業名	獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業
代表校	学校法人シモゾノ学園 国際動物専門学校

会議名	平成 26 年度文科省事業 獣医療体制における中核的専門人材養成の戦略的推進事業 第二回コンソーシアム実施委員会	
開催日時	平成 26 年 12 月 16 日 (火) 13:30~15:30 (2h)	
場所	東京八重洲ホール 201 会議室	
出席者	ご来賓(1名)	
	佐々木 伸雄	動物看護師統一認定機構 機構長 ご来賓
	実施委員会委員 (構成機関・構成員) (17名)	
	下 藺 恵子	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 実施委員長
	坂元 祥彦	(学)宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校 調査・研究
	下田尾 誠	(学)中央総合学園 高崎ペットワールド専門学校 調査・研究
	小嶋 佳彦	一般社団法人 日本小動物獣医師会 調査・研究
	太田 宗雪	(株)インターズー 調査・研究
	松本 州史	東京理器(株) 調査・研究
	井上 舞	アニコム損害保険(株) 調査・研究
	八木 信幸	(学)有坂中央学園 研究開発
坂本 敏	(学)中央工学校 中央動物専門学校 研究開発	

石橋 妙子	(学)宮崎学園 大阪ペピイ動物看護 専門学校	研究開発
山下 真理子	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学 校	研究開発
吉田 多華子	(学)日本環境科学学院 専門学校ア ニマルインターカレッジ	研究開発
砂原 和文	公益社団法人 日本獣医師会	研究開発
西澤 亮治	特定非営利活動法人 動物愛護社会 化推進協会	研究開発
森田 浩平	(株)緑書房	研究開発
中島 利郎	(学)有坂中央学園	評価・検証
伊藤 優作	(学)坪内学園 専門学校松江総合ビ ジネスカレッジ	評価・検証
実施委員会委員 (協力者等) (6名)		
酒井 健夫	日本大学 名誉教授	評価・検証
新井 敏郎	日本獣医生命科学大学	評価・検証
横田 淳子	一般社団法人 日本動物看護職協会	研究開発
左向 敏紀	日本獣医生命科学大学	研究開発
細井戸 大成	公益社団法人 日本動物病院協会	研究開発
原 大二郎	獣徳会 動物医療センター／公益社 団法人 日本動物病院協会	研究開発
実施委員会委員 (コマシラバス作成WG委員) (5名)		
荒岡 杉	(学)穴吹学園 専門学校穴吹動物看 護カレッジ	学習ユニット・コマシラバス 作成WG実施委員・編集委員
若松 あゆみ	(学)宮崎総合学院 宮崎ペットワー ルド専門学校	学習ユニット・コマシラバス 作成WG実施委員・編集委員
関 智恵子	(学)コミュニケーションアート大阪	学習ユニット・コマシラバス

	E C O動物海洋専門学校	作成WG実施委員
横山 晴美	(学) 滋慶コミュニケーションアート 名古屋コミュニケーションアート専門学校	学習ユニット・コマシラバス作成WG実施委員
大内 紀章	岡山理科大学専門学校	学習ユニット・コマシラバス作成WG実施委員
事務局(4名)		
大坪 利久	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 事務局長	事務局
岸田 昌也	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 課長	事務局
久下 雅之	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校	事務局
赤柴 佳穂	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校	事務局
(参加者合計 33 名)		
議題等	<p>【式次第／内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会挨拶 2. 事業概要説明 3. 各WGからの報告 4. 意見交換・質疑応答 5. その他 6. 閉会の挨拶 <p>●議事内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会挨拶 下菌委員長より 2. 事業概要説明 配布資料「獣医療体制分野における中核的専門人材養成の戦略的推進事業（コンソーシアム）第2回実施委員会」（P.2）に沿って説明。 3. 各WGからの報告 【学習ユニット・コマシラバス作成WG】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 32科目（33種類）全てのコマシラバスを作成する。 ・ 学生が見たときに概要だけでどのようなことを学べるかが一目で分かるよ 	

うに作成した。

- ・ 編集委員を設けた。
- ・ 現状では 32 科目 (33 種類) がほぼ完成し、コマシラバス評価検証 WG に渡す。

【学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG】

配布資料「獣医療体制分野における中核的専門人材養成の戦略的推進事業（コンソーシアム）第 2 回実施委員会」（P. 3～）に沿って説明。

- ・ コマシラバス作成 WG で作成されたコマシラバスの精査→完了。（P. 4）
- ・ 学習ユニットを活用するモデルケースを想定し、その分野で修得すべき内容や科目を検討。（P. 4）
- ・ 社会人の学び直しのためのモデルユニットとして、履修証明書を発行出来る条件の 120 時間以上ということを考慮した上で、講義 1 で 180 時間、講義 2 で 225 時間、実習 1 で 285 時間、実習 2 で 255 時間、実習 3 で 135 時間。（P. 5～P. 6）
- ・ 120 時間以上の受講を社会人の方にそのまま要求すること、また学校側としても通常授業期間の受け入れは難しいので、夏休み等の長期休暇中に集中的に行う、あるいは土日・夜間に行うことを検討している。
- ・ 実習のモデルユニットに関しては、実習は設備の整った大学で行い、講義科目は各地の専門学校で受講するという組み合わせも考えている。
- ・ e-ラーニングや通信教育等を組み合わせ、単位の取得をしていくことも想定される。
- ・ 動物看護関連の教育を行っている大学との比較（別表①）。

【職域プロジェクト（ペット産業）・関連職域調査研究 WG】

- ・ 飼い主に対するアンケート 11/25～11/30（4,725 名）、動物飼養歴のない人へのアンケート（群馬・宮崎 670/2,382 名）を実施し、アンケートの分析方向を協議した。
- ・ 全国の犬猫の飼育率の減少という問題がある。
- ・ 実態調査は今年度で終了。

【職域プロジェクト（ペット産業）・マネージャー養成科目開発・検証 WG】

配布資料「マネージャー養成科目開発・検証 WG の進捗状況と今後の予定」に沿って説明。

- ・ 標準養成教育プログラムの開発
→配布資料「H26-マネージャー養成プログラム案 5」の①IT スキル～⑧運営管理の 8 科目を各 15 時間、計 120 時間のコマシラバスを作成。

- ・ 作成したコマシラバスに対応した実証講座 3 回実施（東京会場 11/29、札幌会場 12/14、宮崎会場 1/11）
- ・ 北海道獣医師会、宮崎県獣医師会の後援をいただいている。

【職域プロジェクト（動物看護）・臨床系科目検証 WG】

配布資料「実証講座 開催一覧」に沿って説明。

- ・ 「臨床動物看護学」は昨年度作成した成果物のテキストを使用し、動物看護教員を対象として実証講座を行った。
→コマシラバスを活用した授業の紹介（インストラクショナルデザイン（ID）の活用の仕方）、人の看護教員の指導による看護教育論の紹介、教材とは何か、を含めた授業を行った。
- ・ 「動物看護学」「動物栄養学」は現職の動物看護師を対象として実証講座を行った。
→補助教材としてテキストを作成し、今年度の成果物とする。

【職域プロジェクト（動物看護）・コミュニケーション系科目検証 WG】

- ・ クライアントエデュケーションは動物看護教員、院内コミュニケーションは現職の動物看護師を対象として実証講座を行った。
- ・ 現場に近い科目としてクライアントエデュケーションと院内コミュニケーションを科目設定した。
- ・ 受講者と評価者のアンケートを現在集計中。
- ・ 講座内で意見交換をしっかりと行った。
- ・ 「地域版の学び直し」として各地の地域性を検証したが、あまり明確に特色が出なかったため、追加として、各地の学校に向けて動物看護学科の卒業生がどのような就職先に進んでいるのかのアンケートを実施し、その結果によって地域性が出るかを検証する。
- ・ 以上の内容とアンケート結果や評価者の総評等も入れて成果物とする。

4. 意見交換・質疑応答

● マネージャー養成 WG

- ・ チラシを送った反応状況、効果はどうだったのか？
→非常に反響があった。院長より勧められて受講した人が多かった。アンケートを集計し、報告書としてまとめる。
→宮崎県獣医師会からも、最初に提示した講座の授業名の名称が難しいとのことで不評だったが、授業名を改めて分かりやすくした結果、動物病院の院長先生より評判が良く、ぜひ参加させたいとの意見がある。

●関連職域調査研究 WG

- ・ 動物病院のイメージ調査（動物飼養歴のない方）のアンケート結果が 3,000 名位ないと結果として報告するのは難しいのではないか？

→「動物飼養歴のない方」のアンケートは参考程度にとどめる。

→今後、小動物を取り巻く環境が激変するのではないかと予想しており、動物を飼ったことのない方にどのように動物を飼ってもらうかが大きな課題となるので、もし可能ならば来年度はそのような方に全国的にアンケートを取りたいと考えている。

（新井委員意見）

- ・ 社会が求めている動物看護師の役割を明確にすることで、やらなければならない教育が決まってくる。

（酒井委員意見）

- ・ このプロジェクトのグラウンドデザイン（将来構想）を準備する必要がある。
- ・ 事業の検証・プロジェクト評価として、今年度は政岡先生、野上先生、藤田先生に依頼をしており、成果報告会で3名の先生に評価をしていただく。
- ・ モデル事業の展開と学び直しのプロジェクトを進める必要がある。
- ・ 「獣医療体制」「中核的専門人材養成」「戦略的推進事業」の3つのキーワードを念頭において進めていく。

5. その他

- 平成 27 年 2 月 18 日（水）14:00～16:30 AP 西新宿にて成果報告会

6. 閉会の挨拶

下藺委員長より

以上

平成 26 年 12 月 16 日 コンソーシアム実施委員会(第 2 回) 会議風景



会議議事録

事業名	獣医療体制分野における中核的専門人材養成プログラム開発事業
代表校	学校法人シモゾノ学園 国際動物専門学校

会議名	平成 26 年度文科省事業 獣医療体制における中核的専門人材養成の戦略的推進事業 第三回学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG 委員会		
開催日時	平成 27 年 1 月 23 日 (金) 13:30~17:00 (3.5h)		
場所	国際動物専門学校 本館 4 階		
出席者	下 菌 恵子	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 理事長	実施委員長、学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG リーダー
	八 木 信幸	(学)有坂中央学園	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	酒 井 健夫	日本大学 名誉教授	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	石 橋 妙子	大阪ペピイ動物看護専門学校	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	坂 元 祥彦	(学)宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校 校長	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	坂 本 敏	(学)中央工学校 中央動物専門学校 校長	学習ユニット・コマシラバス評価・検証 WG
	山 下 真理子	(学)シモゾノ学園 国際動物専門学校 教頭	学習ユニット・コマシラバス作成 WG リーダー、コマシラバス評価・検証 WG
	荒 岡 杉	穴吹動物看護カレッジ専門学校	学習ユニット・コマシラバス作成・編集
(参加者合計 8 名)			

議 題 等	<p>【式次第／内容】</p> <p>1. 事業進捗確認 「評価・検証作業について」</p> <p>2. 事業進捗確認 「学習ユニット」</p> <p>●議事内容</p> <p>1. 事業進捗確認（コマシラバス作成 WG 進捗）</p> <p>課題①「評価・検証作業について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・到達目標と実績との差異を確認する <ul style="list-style-type: none"> →コマシラバスの意義（目的）の再確認 A 受講者の達成度評価 B 講師の授業評価 C 科目内容の評価 D カリキュラムの評価（シラバス概要を精査） ⇒上記4点の評価検証が出来る ・シラバス概要の精査（酒井委員より） <ul style="list-style-type: none"> →文章の不統一が目立つ、言語表現（将来的に用語集を作成してはどうか） 例：「犬や猫」→「犬猫」、「患者」or「患者」など →受験・出題対策上必要となっていくのではないか ① 概要は5～6行で表現（まとめる） ② 抽象的な書き方を具体的な書き方にする ・評価者が直した、アドバイスを行った具体的観点・箇所 <ul style="list-style-type: none"> →酒井先生が纏めて、八木先生に報告（1/25 まで） ・編集委員のなかで、改訂箇所一覧を成果として残す（石橋委員） ・課題：ローマ数字の表記方法 <ul style="list-style-type: none"> →学生から見て、同じような表記・番号がある。 算用数字にするかアルファベットにするか。 ・コマシラバスの備考欄を削除する <p>○ コマシラバスの科目概要部分の再編集</p> <ul style="list-style-type: none"> →酒井委員の評価を追記、概要文章表現、数字表現を反映させて再編集する →コマシラバス編集委員会（石橋委員・山下委員・荒岡委員）を中心に分担して行う。 →監修者、監修箇所が判明出来るように表現する。 <p>○ コマシラバス集の冒頭部分の文面を編集委員のなかで分担する。</p> <p>○ コマシラバス表は A4 で作成</p>
-------------	---

2. 課題②「学習ユニットモデルケースの作成手順」
- ・学習ユニットの3モデル
 - ①動物看護師の関連職種者（トリマー・飼育員・ドッグトレーナー）
 - ②畜産分野等履修者
 - ③医療分野履修者及び介護福祉分野履修者
 - ・統一認定試験（受験資格）とは切り離して考えるべきである。
 - 社会人の学び直しにとって有益なプログラム開発
 - ・履修証明を時間数にするのか、単位数にするのかを検討
 - 時間数を基準にする
- モデル学習ユニットの時間数と授業科目の検討
- ・飼育管理学（エキゾチックアニマル）と飼育管理学（産業動物）60時間
 - ・動物飼育実習45時間
 - エキゾチック（30時間）＋産業動物（15時間）とする（組み合わせる）

以上

平成27年1月23日 学習ユニット・コマシラバス評価検証WG（第3回）
会議風景

